

Water Sports
Program

小中学校
海洋教育プログラムの
実践&検証

報告書

鎌倉市のウォータースポーツ教育実施事例

はじめに



日本は、国土を海で囲まれた自然豊かな国です。その海から国民は様々な恩恵を受けています。しかし、次世代を担う子どもたちには、文部科学省が定めた学習指導要領に沿った学校教育が行われており、ウォータースポーツや海洋教育を包括的に教育する教科や単元が無いのが現状であり、海洋を総合的に学ぶための機会が不足していると指摘されています。このような中、2007年に海洋国家日本の権益を守り、国民が海についての理解と関心を深めることを目的とした海洋基本法が施行され、海洋教育の推進について必要な措置を講じるものと規定されました。

そこで、特定非営利活動法人チャレンジスポーツクラブは公益財団法人笹川スポーツ財団の協力のもと、海洋教育が学校教育の一環として定着するようモデルケースの実施と効果の検証を行い、報告書としてとりまとめました。

この報告書が関係者の方々にいささかなりともご参考になれば幸いに存じます。

おわりになりましたが、本報告書を取りまとめるにあたってご指導、ご協力を頂きました関係の方々に、改めて御礼申し上げます。

2012年3月

特定非営利活動法人チャレンジスポーツクラブ

子どもたちの

健全な成長のために





海で遊ぼう
海を知ろう
海を敬おう



海について語ろう
海をきれいにしよう

授業に 海洋教育を導入しよう

Contents

はじめに	1
第1章 事業の概要	6
～なぜ、海洋教育が必要なのか？～	
1. 背景及び目的	6
実施背景	
事業の目的	
2. 事業内容	7
ウォータースポーツプログラムの研究および開発	
第2章 研究対象	8
～鎌倉市立第一中学校の導入事例～	
1. 鎌倉市立第一中学校「ふれあいタイム」	8
「ふれあいタイム」とは？	
「ふれあいタイム」実施概要	
2. 総合的な学習の時間にウォータースポーツを導入した経緯	10
海を学習のステージに	
3. チャレンジスポーツクラブが「ふれあいタイム」に関わった経緯	10
「ふれあいタイム」マリンスポーツ教室における担当の変遷	
4. 2011年度「マリンスポーツ教室」の実施内容	12
開催日程	
実技種目の紹介	
授業の実施スケジュール	
5. プログラム実施後の教職員の意見・感想	15
フリーディスカッション	
第3章 調査・研究	17
～ウォータースポーツ教育プログラムの開発・実践・評価～	
1. 調査の概要	17
調査の概要と体制	
2. 調査報告	18
はじめに	
調査方法	
結果	

第4章 提案 24

～授業に海洋教育を導入するために～

1. 実施体制の構築	24
役割分担の重要性	
行政が果たすべき役割：4つのステップ	
学校が果たすべき役割：4つのステップ	
海洋教育導入への流れ	
2. 海洋教育における主な講義	28
実施種目のバリエーション	
主な種目と適した学年	
各種目の適したシーズン	
3. 主な実技種目の紹介	29
各種ウォータースポーツ	
漁体験	
クルージング	
磯・海洋生物の観察	
海岸に流れ着く海藻の観察	
ビーチコーミング	
4. 主な座学の紹介	34
座学の目的	
自然科学	
安全対策	
5. ウォータースポーツを体験した教職員の意見	35
プログラム導入に関するアンケート	
フリーディスカッション	

Appendix 参考資料 45

資料1：「ふれあいタイム」マリンスポーツ教室で使用した教科書	46
資料2：運動・スポーツ活動状況調査	52
資料3：海洋教育プログラムに関する調査【オーシャン・リテラシー・サーベイ】	58
資料4：過去1年間に1回以上行った運動・スポーツの実施状況	60
資料5：オーシャン・リテラシー・サーベイによる海の理解度	62
資料6：津波警報時のオレンジフラッグ掲揚について	63

SPORT FOR
**every
one**

事業の概要

1

第一章

なぜ、海洋教育が必要なのか？

#1

背景及び目的

実施背景

2002年度に施行された学習指導要領では、小学校の体育、中学校の保健体育において、自然とのかかわりの深い活動のひとつとして水辺活動が明示されました。これにより、学校の実態に応じて積極的に水辺活動を行うことが求められています。また、2007年には、海に囲まれた我が国において、海洋に関する基本理念を定め、海洋と人類の共生に貢献することを目的に、『海洋基本法』が制定されました。その『海洋基本法』第二十八条において、「国は、国民が海洋についての理解と関心を深めることができるよう、学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進、海洋に関する国際連合条約その他の国際約束並びに海洋の持続可能な開発及び利用を実現するための国際的な取り組みに関する普及啓発、海洋に関するレクリエーションの普及等のために必要な措置を講ずるものとする」として海洋に関する国民の理解の増進等が求められています。

しかしながら、2003年に日本マリンスポーツ普及教育振興財団が実施した「水辺活動の教育への導入に関する調査報告書」によれば、水辺活動の実施率は小学校で32%、中学校で23%と報告されています。このように低水準の実施率にとどまっている要因として、臨海学校の廃止や教育現場での「指導者不足」「施設や設備」「安全管理上」等が大きな課題となっています。また、この10年間で海や川で泳ぐといった子ども達の「水離れ」「海離れ」が進んでいるとの報告もなされています。



事業の目的

前述のような背景をふまえ、状況を打開するために、私たちは、小中学校の授業で実施可能な体験型の学習プログラムの開発を目指しました。

海はもちろんのこと、川や湖沼など地域に合わせ、水辺に親しみ、正しい理解や関心を深めるためには、水辺で行うさまざまなウォータースポーツに取り組むのが一番です。しかしその実現には、小中学校の水辺活動の実施率低下の要因として上げられている内容がそのまま課題として残ります。その打開のた

めには、地域の教育機関、民間団体、行政などが連携して取り組む必要があります。

今回私たちは、小中学校の授業にウォータースポーツを導入し、定期的かつ継続的に実施する体制を確立するために、事業を実施しました。この事業をきっかけに、海洋教育の重要視や必要性を多くの教育機関に認識していただき、学校教育の一環として海洋に関する教育やウォータースポーツが普及する足がかりにしたいと考えています。

#2

事業内容

ウォータースポーツプログラムの研究および開発

本事業は、鎌倉市立第一中学校の「ふれあいタイム」と呼ばれる「総合的な学習の時間」に行われる授業において、ウォータースポーツに取り組み、あわせて海や自然環境、気象等に関する知識を学ぶプログラムを実施しました。同校は海にほど近い立地であり、ウォータースポーツを授業に取り入れる上で、絶好の条件が整っていました。また、昨年3月の東日本大震災の影響から海離れが危惧される中、海に隣接し、海と共存している鎌倉市で、海とふれあい、海を知ることが本当の危機回避であるという考えのもと、教職員や保護者の理解を得て事業を推進できたことは、海洋基本法に定められる理念とも合致しております。これは海に囲まれた日本全体に共通して必要な認識なのではないでしょうか。具体的なプログラムの内容は、第2章で詳しく解説しています。

さらに、海洋教育やウォータースポーツを授業に取り入れることの重要性や、私たちの取り組みに対する理解を深めたいいただくために、横浜国立大学の海老原教授に依頼し学術的な観点から、教育効果の検証・評価を行なっています。この結果は、第3章に調査・研究として掲載しています。

一方、このようなプログラムを実際に採用するに

あたっては、さまざまな問題があることは言うまでもありません。たとえば、現状の学習指導要領で、ウォータースポーツや海洋教育を扱う教科や単元が存在しないこともそのひとつでしょう。今回、鎌倉第一中学校の「ふれあいタイム」をモデルケースとして採用したのは、どこの学校でも行なっている「総合的な学習の時間」の中でウォータースポーツに取り組んでいる点が大きな理由となっています。このほか、多くの問題や疑問に応えるべく、本プログラムを採用するにあたっての様々な提案を第4章で行なっていますので、参考にして下さい。



研究対象

2

第二章

鎌倉市立第一中学校の導入事例

#1

鎌倉市立第一中学校「ふれあいタイム」

「ふれあいタイム」とは？

今回、私たちは、鎌倉市立第一中学校において「総合的な学習の時間」で行われている「ふれあいタイム」の講座の一つである「マリンスポーツ（海洋授業）」を対象として、「ウォータースポーツを中心とした海洋教育を学校の授業に採用し普及するための調査・研究」を行いました。

「ふれあいタイム」における「マリンスポーツ教室」は、地元・鎌倉で活動するチャレンジスポーツクラブが、協力団体としてウインドサーフィンを中心とした実技と、それにまつわる気象等の内容を座学として指導するものです。

「ふれあいタイム」は、鎌倉市の指定研究として、第一中学校において1990年から“地域に根ざした新たな教育活動をめざして”をスローガンに保護者や地域の人々を講師に迎え、生徒が自主的・主体的に活動できる場として土曜日に実施されてきた『ふれあいサタデー』をルーツとしています。2007年

に平日実施の活動として生まれ変わる際に名称も変更されたものです。開始以来、時代に合わせた修正を繰り返しながら続いています。毎年多くの講座が開講され、生徒は自らの希望で講座を選択し受講します。



「ふれあいタイム」実施概要

■目的

○地域教育力を活用し、生徒の個性・自主性・自律性などを育てるとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。

○教科等で身に付けた知識や技能を活用し、探求しようとする態度を養う。

■実施期間

4月～9月

■実施回数

年に4回実施（最大8回まで増やして実施可能）

■実施時間

13:30～16:00を原則とする

■参加対象

○生徒全員

○保護者希望者

■2011年度「ふれあいタイム」講座一覧

フラワーデザイン

染色

スパイスとふれ合おう

英語でエエゴー！

トリックアート

ストリートダンス

なぎなた

合気道

インディアカ

ヨーガ

磯の中、小物釣り

フットサルクリニック

エコで遊ぼう

テコンドー

ライフセービング

ミュージアム・トリップ

書道で青春！“とめ・はね”

マリンスポーツ教室

REFERENCE



鎌倉市立第一中学校

〒248-0013 神奈川県鎌倉市材木座6-19-19

鎌倉市の東南、逗子市との境で、材木座海岸のすぐ近く、浄土宗関東総本山光明寺の裏の丘陵に立地します。海を臨み、緑の木々が茂る高台にあるため、鳥のさえずりや潮騒まで聞こえてきます。

校門前からの眺望は、神奈川の景勝五十選『光明寺裏山の展望』に指定されており、光明寺本堂の屋根越しに、鎌倉の市街地と美しい海岸線を眺めることができます。また、天気の良い日には、名将新田義貞の史跡で知られる稲村ヶ崎の彼方に、江ノ島や富士山が遠望できます。特に富士山の冬の雪化粧した姿や夕日に赤く染まった空に浮かぶシルエットは美しく目を奪われます。



鎌倉の湾の向こうに稲村ヶ崎、その奥に江ノ島が見えます。稜線は伊豆の山々と雪化粧した富士山。

#2

総合的な学習の時間にウォータースポーツを導入した経緯

海を学習のステージに

すぐ近くに海があるという絶好の自然環境のため、『ふれあいサタデー』が開始された当初からヨットやサーフィンといった海に親しむ講座が開設されています。海は子供にとって様々なことを学ぶことができる絶好の場でありながら、多くの危険も潜んでいるため、日本ではこれまで学習の場として有効に活用されてきませんでした。しかし、同校では、「危

険を冒さないために、海を知るための講座を開く」という意識のもと、学習の場として海を活用してきました。その後、ヨットやサーフィンの講座はなくなりましたが、10年以上前から鎌倉マリンスポーツ連盟の協力を得てウインドサーフィンの講座が行なわれている他、ライフセービング講座など、海の素晴らしさ、厳しさを学ぶ場となっています。

#3

チャレンジスポーツクラブが「ふれあいタイム」に関わった経緯

「ふれあいタイム」マリンスポーツ教室における担当の変遷

「ふれあいタイム」において、10年以上前から鎌倉マリンスポーツ連盟が協力団体として「ウインドサーフィン」講座を担当し、連盟の加盟団体が交代で講座を担当してきました。2011年からは、児童・生徒に対するウォータースポーツを中心とした海洋教育の経験があるNPO法人チャレンジスポーツク

ラブが運営を引き継ぎました。チャレンジスポーツクラブは、2004年から小学生を対象に夏休みに海で遊び、海で学ぶ「マリン学校」や横浜国立大学付属鎌倉小学校の課外授業として海洋教育を行うなどの実績があります。

法人概要

名称 特定非営利活動法人チャレンジスポーツクラブ

代表 新嶋光晴（理事長）

設立 2005年11月25日

所在地 〒248-0013 神奈川県鎌倉市材木座6-16-35

連絡先 tel & fax 0467-24-6828

活動内容 海のもつ優しさ、厳しさ、清々しさといった多くのエネルギーは子ども達の健全な肉体と精神の育成に大きな役割を持ちます。その海をステージに、海やマリンスポーツを熟知した海遊びのプロ達が先生として以下のような活動を行なっています。

- 子ども達が海やマリンスポーツを通じて、大いに楽しみ、遊びながら自然環境を考え、学ぶことができるような参加型プログラム、イベントを1年を通して開催しています。
- ウインドサーフィンの競技者の育成を行い、将来のオリンピック選手輩出を目指します。
- 「ウエットスーツを着て、子ども達の夏を長くしよう」キャンペーンを実施しています。ウエットスーツを適切に着用する事により、1年中海に入って遊ぶ事ができることを啓蒙し普及させています。

チャレンジスポーツクラブ活動実績

『マリン学校』

海で遊び、海で学び、海に親しむために、小中学生を対象とした海洋教育の場として、2004年より毎年、夏休み期間中に開校しています。1日コースおよび3日コースが複数回行われ、非常にリピーターが多いのが特徴です。



ウインドサーフィンを中心としたマリンスポーツ体験の他、磯観察やビーチコーミングなどを通して自然環境や海洋生物について学ぶ機会を与えています。

『鎌倉ジュニアウインドサーフィンクラブ』

2005年に日本で初めての小中学生を対象としたウインドサーフィンクラブを設立。4月～11月まで毎週日曜日に将来のオリンピック選手を輩出すべく練習を行なっています。



ウインドサーフィン以外にもコンディションに合わせたマリンスポーツを経験させることにより心身を鍛え、風や波、そして気象全般についての知識も学ばせています。

『横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校・課外授業』

1日を通して海で学ぶ授業。2008年より試験的に導入され、2010年からは3年生から6年生まで全クラスで正式に授業として実施されるようになりました。



2008年：2クラス実施

2009年：5クラス実施

2010年：3年～6年生まで全クラス実施

※マリンスポーツの実技だけでなく、学年にあわせた気象や自然生物などについての座学も行なっています。

開催日程

2011年度の「マリンスポーツ教室」には、1年生から3年生まで男女混合で20名が参加しました。5月から9月の間に8回開催され、開催日により終日、午前のみ、午後のみスケジュールで行われました。

実技だけでなく、各種目の説明や海にまつわる気象・海象などの知識を座学として体系的に学びます。(座学に使用したテキストを46ページに掲載しています)



開催日	内容
5月26日(木)	座学：鎌倉の海の地形、海で安全に遊ぶ方法、津波の対処方法、ウインドサーフィンおよびスタンド・アップ・パドルボードについて 実技：ウインドサーフィン、スタンド・アップ・パドルボード
6月9日(木)	座学：なぜ風は吹くのか？ なぜ波が発生するのか？ 実技：ウインドサーフィン、スタンド・アップ・パドルボード
6月30日(木)	座学：潮の満ち引きについて 実技：ウインドサーフィン、スタンド・アップ・パドルボード
7月25日(月)	座学：— 実技：ウインドサーフィン、スタンド・アップ・パドルボード、スノーケル
7月26日(火)	座学：強風時のセイリング方法 実技：ウインドサーフィン、スタンド・アップ・パドルボード
8月23日(火)	座学：鎌倉の海の生き物、鎌倉の海で行われている漁 実技：ウインドサーフィン、スタンド・アップ・パドルボード
8月29日(火)	座学：台風のマカニズム、安全対策 実技：ウインドサーフィン、スタンド・アップ・パドルボード (いずれもレース)
9月8日(木)	座学：参加者からの感想など発表会 実技：ウインドサーフィン、スタンド・アップ・パドルボード (いずれも長距離走行)



実技種目の紹介

ウインドサーフィン

Windsurfing

■種目の特徴

ボードとセイルが接続された専用の道具を使用し、風を受けたセイルに発生する揚力と波の斜面を滑り降りる推進力を主な動力として水面を滑走するスポーツです。ボードセイリングの呼称で国体やオリンピックの種目にもなっています。

■授業の目的

風をとらえて、風の力だけで走ることで、普段あまり意識することのない自然の力を身近に感じ、理解を深めることができます。また、力の向きや強さ、揚力など体験を通して学習できます。

■必要機材

ボード及びリグ部（セイル）一式。学年や体格によってセイルのサイズを変えるほか、風が強い時には、セイルサイズを小さくするなど、コンディションに合わせることも重要です。



まず陸上でセイルが倒れた状態から引き起こし、走り始めるまでの手順を練習します。同時にセイルに風を受けた時の手応えを感じ、バランスのとり方や力の加え方を学びます。

海上では、まず風に対して直角に走る練習をします。コンディションにもよりますが多くの児童・生徒が半日で進めるようになり、午後にはターンの練習を行うまでになります。

スタンドアップ・パドル・ボード

Stand up paddle board

■種目の特性

S.U.P.とも表記されます。大きなサーフボードの上に立ち、パドル（オール）を使って漕ぐスポーツです。長距離を移動する事も可能であり、波や風の無いフラットな水面でも楽しめる事から、海はもちろん川や湖沼でも、また子供から高齢者まで取り組めるスポーツとして世界中で注目されています。

■授業の目的

自分の力で岸から離れ沖に出てまた戻るという体験をすることで、達成感を味わえます。また海水浴やボートに乗ったのでは見ることのできない海の様子に触れ観察することができます。

■必要機材

ボードとパドルおよび流れ止めのリーシュコードを使用します。ボードは専用のもので、浮力があり安定するウインドサーフィン用のボードを状況に応じて使い分けます。



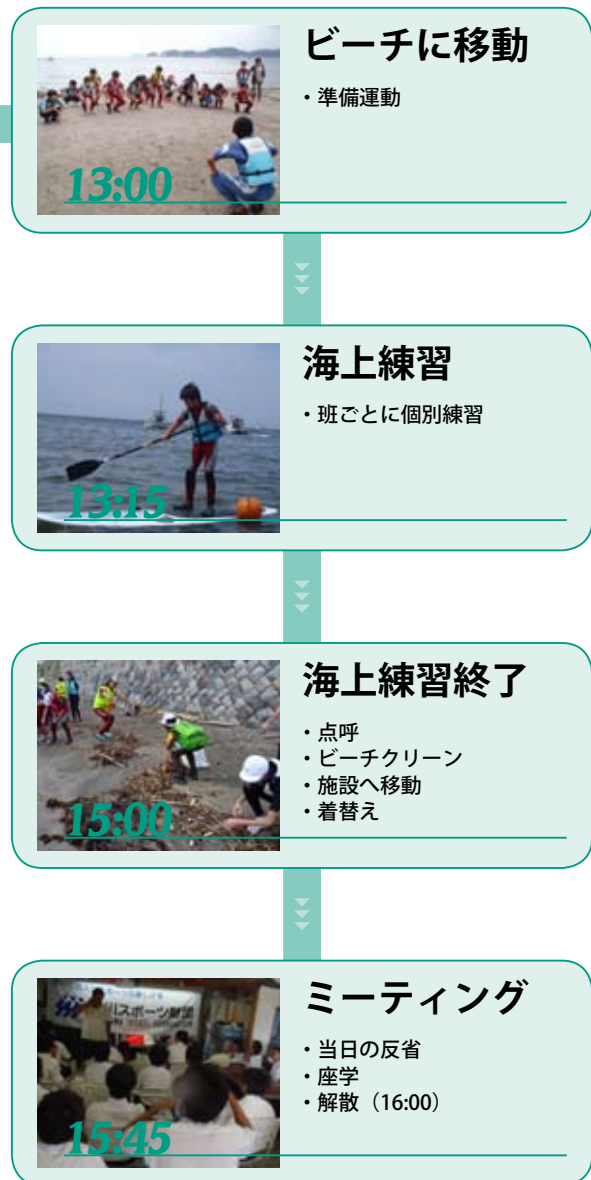
陸上で、パドルの持ち方や乗る位置などのポイントを説明してから、漕ぎ方やターンのしかたを練習をします。また、沖に出ることもあるので、海上での注意点をしっかり理解してもらいます。小学1～4年生は漕ぐ力が弱いので、基本的に1本のボードに2人で乗させます。

海上ではまず座った状態で漕ぐ練習をして、バランスを取ることに慣れてきたら立ち上がります。近くにマークを設定し目的の場所に行くこととターンのコツをつかめるように練習します。風や波などのコンディションが良ければみんなで沖に向かいます。

授業の実施スケジュール

授業の当日は、チャレンジスポーツクラブの施設に集合しました。基本的に集合後、着替え、座学、実技の流れで行います。終日授業を行う場合と半日

の場合では若干異なりますし、実技の習熟度やコンディションによっても異なります。ここではモデルケースを紹介します。



TIPS

集合に関しては、学校の立地や児童・生徒の学年により、「現地集合」「学校で集合の上、教職員が引率」「最寄り駅に集合」など個別に判断する必要があります。解散も同様です。

フリーディスカッション

プログラムの全日程終了後、ご協力いただいた鎌倉市立第一中学校の教職員の方々から、フリーディスカッション形式でご意見やご感想をいただきました。他校で導入を検討される上で、参考になる意見が寄せられています。



「ふれあいタイム」でウォータースポーツを実施することについて、最初はどのように感じましたか？



●安全管理についての不安はあったが、それぞれの専門家に運営を任せていたので、安心して実施することができた。2001年から現在まで事故はない。(それ以前は不明)

●保護者から、ウォータースポーツ種目について運営や安全に関する指摘はない。ふれあいタイムを実施する前に、全体で講義説明会を開催している。また、講義は選択式であることがその要因と思われる。

●ウォータースポーツは、普通の授業とは異なる課外活動のため、ものの見方が変わると思う。



「ふれあいタイム」で実施したウォータースポーツ（マリンスポーツ・ライフセービング・釣り）に、どのような成果を期待していますか？



●海に近い学校のため、自然にふれあい、地域の特徴を生かした教育を行いたい。

●生徒には、この環境を活かし、ウォータースポーツを通じて海洋のことを知ってほしい。

●ウォータースポーツの中で、釣りを体験する機会は比較的容易にある。しかし、ウインドサーフィンやスタンド・アップ・パドルなど道具や技術を必要とする種目は、専門の指導が必要なため、本カリキュラムは、有意義なプログラムであると感じる。

●ウォータースポーツについては、指導を行っている団体や場所、機材が整っているので、積極的に活用し、継続して実施していきたい。

●この活動を他校に紹介することで、多くの生徒が豊かな価値観を見出せる教育モデルとしたい。



「ふれあいタイム」を実施したことで、生徒に変化や保護者から反応がありましたか？



●他校と比較すると、人前で話せる生徒や、自らの意見を述べられる生徒が多いと保護者から評価されている。これは、ふれあいタイム（ウォータースポーツなども含む）を始めとするコミュニケーションを伸ばす教育を意識している成果だと思われる。



今後新たに総合学習以外でウォータースポーツなどの授業を実施する予定はありますか？



●できるだけ多くの生徒に体験させたいと考えている。方法については現在検討中。

●新たにウォータースポーツや海洋教育の授業を追加することは難しい。すでに年間の授業計画が決まっているため、社会や理科、体育などの授業として実施をすることで、既存の課外授業や行事を減らさないことも考えられる。

●例えば、社会で海岸清掃を行い漂流物について考える、理科で校庭周辺の生物観察をするなど、ものの見方を広げる取り組みを行っている。



ウォータースポーツの外部講師に求めることはありますか？



●学校の授業として生徒に指導をするため、社会人として適切な服装や髪型、行動や言葉づかいを望む。



津波や水難に対する防災教育を学校で行う意義や実施の可能性についてどう考えますか？



●通常の避難訓練のみを実施しており、特別な授業は行っていない。また鎌倉市立第一中学校は、海拔 20m 以上なので安全と考えている。





第三章

調査・研究

ウォータースポーツ教育プログラムの 開発・実践・評価

#1

調査の概要

調査の概要と体制

ウォータースポーツを中心とした海洋教育のプログラムを構築し、広く普及させるためには、その教育効果が実証されなければなりません。そこで、横浜国立大学との共同研究として、同大学教育人間学部の教授であり、鎌倉スポーツ推進審議会の会長でもある海老原氏に調査分析を依頼しました。

すでに海洋教育のプログラムが実施されている横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校および鎌倉市立第一中学校に加えて、鎌倉市教育委員会スポーツ課のご協力をいただき、鎌倉市立小学校16校および市立中学校9校（第一中学校除く）の児童・生徒を対象にウォータースポーツの経験や海洋に関する質問紙調査を行いました。

次節では主な調査結果を報告しております。海洋教育の必要性の把握、理解にお役立て下さい。

PROFILE

代表研究者

海老原 修 教授

横浜国立大学教育人間科学部
学校教育課程 保健体育講座

専門分野（科研費分類）

- ・スポーツ科学
- ・応用健康科学

現在の研究課題

- ・スポーツにみるメタのメッセージ
メタのメッセージ、スポーツ
- ・スポーツへの社会化
社会化、子ども、スポーツ
- ・生涯スポーツに関する研究

役職

笹川スポーツ財団スポーツライフ調査委員会 委員長
鎌倉市スポーツ推進審議会 会長

はじめに

初等中等教育の基礎は自己を起点とする地域学習にあります。その学習は身近な事象から果てしなく遠い事象へ、すなわち具体から抽象へと広がります。自分の体験を反芻して、その意味合いを理解し、ようやく、それまでの自分がこれからの自分に生まれ変わる更新が出来ます。それは確かな自己が確立される自立を促す教育の端緒となります。そのためには、自分とは違うさまざまな事象が手助けしてくれます。それは、他者であったり、見つめる自分であったり、自然であったりします。自分のありさまを知るためには他者性が必要となるからです。去る2012年3月17日に他界した宮中歌会始選者・安永路子はその第1歌集「魚愁」(1956)で「抽象は夥(おびただ)しい省略としてなりたつ統一への仕事」と、人間はもとより強靱な自然から学んでいます。神奈川県鎌倉市は幸いにも、厳しい自然と芳

醇な歴史の帰結としての豊かな人間性を持っています。

すでに、鎌倉市立第一中学校では、「ふれあいタイム」と称する総合的な学習の時間を、地域住民と教職員が知恵を寄せ合って開発した地域学習があります。そこでは、目前に広がる海浜の自然環境はもとより、隣接する逗子市や藤沢市の学習拠点を活用しています。

また、横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校は、2010年度より、海洋教育プロジェクトの一環として、海の学習を導入して、①海洋につながる地域素材を豊富に有する地の利を教育資源として開発・活用するとともに、②伝統行事「宿泊生活」を再検討し、小学校教育現場での海洋教育教材開発、体系的カリキュラム編成への組入れの検討、および、実践的な評価を行ってきました。

調査方法

本研究プロジェクトでは、鎌倉市教育委員会スポーツ課、鎌倉市立第一中学校、横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校の協力の下、市立小学校と中学校で『運動・スポーツ活動状況調査』(52ページ資料2参照)を、後1者には『海洋教育プログラムに関する調査【オーシャン・リテラシー・サーベイ】』(58ページ資料3参照)をそれぞれ実施し、ウォータースポーツ活動への参与状況や海洋に関す

るリテラシーの現況の把握を試行しました。

2011年7月～9月に市立小学校16校5年生487名、市立中学校9校2年生(鎌倉市立第一中学校除く)247名から、2011年9月に鎌倉市立第一中学校の全校生徒215名から、2011年9月～10月に横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校3年～5年生合計300名から、それぞれ有効回答を得ました。

結果

まず、『運動・スポーツ活動状況調査』の問12の結果を示しました(表1)。ウォータースポーツ・プログラムを先行して実践する鎌倉市立第一中学校の総合的な学習の時間「ふれあいタイム」(2011年度開講)18種類のプログラムを紹介し、市内の小学5年生と中学2年生に、参加してみたいプログラムをすべて選んでもらいました。

ウォータースポーツに関連する項目は「磯の中小物釣り」「ライフセービング」「ウインドサーフィン」です。「磯の中小物釣り」を行ってみたいと回答した割合は小学5年生の半数弱、中学2年生の3分の1となります。「ライフセービング」では小中学校ともに7%台を示しました。「ウインドサーフィン」では小中学校ともに3分の1が行ってみたいと回答を寄せています。磯釣りやウインドサーフィンへの関心が高いことがわかります。

このプログラムへの参加希望を鎌倉市立第一中学校の全校生徒にたずねると、「磯の中小物釣り」では20.5%と5人に1人が、「ライフセービング」では9.5%と10人に1人が、「マリンスポーツ教室(ウインドサーフィン)」では15%が行ってみたいと回答しています。2011年度で開講された18のプロ

グラムに限定して、希望率が10%を超える項目が「インディアカ」17.5%、「スパイスとふれ合おう」11.5%と比較すると、ウォータースポーツの人氣が高いことが確認されます(表2)。

このような鎌倉市の子どもたちの特徴をさらに確認できるデータを紹介します。過去1年間に行った運動・スポーツの実施状況を笹川スポーツ財団が全国調査「青少年のスポーツライフ・データ2010」で紹介していますが、このデータから小学生と中学生を取り出して、今回の調査と比較してみました(60ページ資料4参照)。全国調査と鎌倉市におけるウォータースポーツの実施状況を比べれば、鎌倉市の子どもたちの特徴が客観的に把握できそうです(表3)。「水泳」では小学生49.8%、中学生21.3%に対して、鎌倉市の小学5年生69.8%、中学2年生36.0%、鎌倉一中25.5%と高い水準にあります。また、運動・スポーツそのものというよりは文化的な活動となる「海水浴」では、全国調査で小学生20.2%、中学生11.0%に対して、鎌倉市の小学5年生39.4%、中学2年生22.7%、鎌倉一中32.0%と高い実施水準が確認できます。さらに、「カヌー」「サーフィン」「スクーバダイビング」「ボー

【表1】

鎌倉市内小・中学生が参加したい「ふれあいタイム」の種目(複数回答)

No	種目名	小5 (n=487)	中2 (n=247)	全体 (n=734)
1	フラワーデザイン	25.3	14.2	21.5
2	染色	31.0	18.6	26.8
3	スパイスとふれる	25.5	23.9	24.9
4	英語でゴール!	17.5	15.0	16.6
5	トリックアート	67.1	52.2	62.1
6	ストリートダンス	10.1	16.6	12.3
7	なぎなた	16.8	23.5	19.1
8	合気道	11.3	27.5	16.8
9	インディアカ	19.1	21.5	19.9
10	ヨーガ	15.6	14.2	15.1
11	磯の中小物釣り	46.4	32.4	14.7
12	フットサル	22.6	27.1	24.1
13	エコで遊ぼう	18.9	4.0	13.9
14	テコンドー	14.0	18.6	15.5
15	ライフセービング	7.0	7.3	7.1
16	ミュージアム	17.7	9.7	15
17	書道で青春!	11.9	7.3	10.4
18	ウインドサーフィン	34.9	34.4	34.7

【表2】

鎌倉市立第一中学生の全校生徒が参加したい「ふれあいタイム」の種目(複数回答)

No	種目名	鎌倉一中 (n=200)
1	フラワーデザイン	7.5
2	染色	5.0
3	スパイスとふれる	11.5
4	英語でゴール!	1.5
5	トリックアート	8.0
6	ストリートダンス	7.0
7	なぎなた	6.0
8	合気道	7.0
9	インディアカ	17.5
10	ヨーガ	5.0
11	磯の中小物釣り	20.5
12	フットサル	5.5
13	エコで遊ぼう	7.5
14	テコンドー	5.5
15	ライフセービング	9.5
16	ミュージアム	2.5
17	書道で青春!	2.5
18	ウインドサーフィン	15.0

ト」「ボードセーリング (ウインドサーフィン)」「ボディボード」「ヨット」のすべての項目で全国調査に比べて、鎌倉市調査が高い数値を示します。とりわけ、「ボディボード」では全国調査全体で0.5%、小学生0.5%、中学生0.6%に対して、鎌倉市の小学5年生13.6%、中学2年生8.1%、鎌倉一中18.5%、鎌倉市全体で13.2%と、格段の違いをみせます。さらに、「釣り」でも全国調査全体で8.7%、小学生16.1%、中学生10.7%に対して、鎌倉市の小学5年生29.4%、中学2年生17.0%、鎌倉一中27.5%、鎌倉市全体で25.7%と、積極的な関与がうかがわれます。

このようなウォータースポーツ活動への参加は子どもたちの海洋に関するリテラシーを高める効果が期待できます。海についての調査「オーシャン・リテラシー・サーベイ」を今回のプロジェクトですべての対象者に科し、回答を得ました。オーシャン・リテラシー27項目を準備し「まったくあてはまらない」1点～「とてもよくあてはまる」6点と点数化しました(62ページ資料5参照)。

その上で、ウォータースポーツに関する指標の組合せに基づくグルーピングによって、そのグループのオーシャン・リテラシーを比較しました。具体的には、①ウォータースポーツへのインフォーマルな参加として、「運動・スポーツ活動状況調査」における、過去1年間に行われた「アクアビクス」「水泳」「海水浴」「カヌー」「サーフィン」「スクーバダイビング」「ボート」「ボードセーリング (ウインドサーフィン)」「ボディボード」「ヨット」「釣り」「シュノー

ケリング」を調べて、これらの活動を行ったグループ、②鎌倉一中ではふれあいタイムのウォータースポーツ関連プログラムに参加したグループ、③横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校3年～5年生は全員がウォータースポーツに参加するグループの3つの指標からグルーピングされます(表4-a、表4-b)。

そのグループはF群からP群となります。

鎌倉市小学5年生と中学2年生は、鎌倉一中や附属鎌倉小学校のフォーマルなプログラムが開講されていませんので、①に基づくグルーピングとなります。それがF群、G群、H群、I群に分類できます。鎌倉一中では、①と②に基づき4グループに分類できます。インフォーマルなウォータースポーツを経験し、ふれあいタイムのウォータースポーツには参加しなかったL群、インフォーマルなウォータースポーツは行っていないが、ふれあいタイムのウォータースポーツに参加したM群、インフォーマルなウォータースポーツを経験しているが、ふれあいタイムのウォータースポーツには参加しなかったN群、インフォーマルなウォータースポーツも、ふれあいタイムのウォータースポーツにも参加したO群です。ここに、全員がウォータースポーツに参加した附属鎌倉小学校P群が加わります。

さて、オーシャン・リテラシーの妥当性、信頼性、客観性は措くとして、ここでは、オーシャン・リテラシーを手がかりとして、インフォーマルな学習とフォーマルな学習の関係に言及できそうです。それは地域の潜在的な教育力と学校の顕在化した教育力

【表3】

過去1年間に1回以上行ったウォータースポーツの実施状況

(%)

種目名	鎌倉市				青少年のスポーツライフデータ 2010		
	小学5年	中学2年	鎌倉一中	小計	全体	小学校期	中学校期
	(n=487)	(n=247)	(n=200)	(n=934)	(n=1,989)	(n=410)	(n=625)
アクアビクス	0.8	0.8	2.5	1.2	0.1	0.0	0.0
水泳	69.8	36.0	25.5	51.4	21.0	49.8	21.3
海水浴	39.4	22.7	32.0	33.4	10.3	20.2	11.0
カヌー	8.8	4.9	11.5	8.4	1.1	2.0	1.0
サーフィン	6.8	5.7	8.5	6.9	0.3	0.0	0.6
スクーバダイビング	1.0	2.0	4.5	2.0	0.1	0.0	0.0
ボート	10.1	1.6	4.5	6.6	0.6	0.5	1.3
ボードセーリング (ウインドサーフィン)	2.5	0.8	7.5	3.1	0.0	0.0	0.0
ボディボード	13.6	8.1	18.5	13.2	0.5	0.5	0.6
ヨット	3.5	2.8	2.5	3.1	0.0	0.0	0.0
釣り	29.4	17.0	27.5	25.7	8.7	16.1	10.7

となります。冒頭に記した地域学習とは、地域の潜在的な教育力を学校の教育力に統合しようとする試みとなります。

取り立てて、ウォータースポーツを教育していない鎌倉市小学校と中学校となるF群、G群、H群、I群の比較はインフォーマルな教育力を確認することとなります。ウォータースポーツ活動を行った子どもほど、すべての項目で高い数値を示します。「1. 海で泳いだり、海岸で走ったり歩いたり、磯場で遊んだりといった活動をよくする」ので、さまざまなリテラシーが刺激されます。4ポイント以上を獲得する項目に注目すると、小学5年生経験者が「2. 海で活動するとき、天気や海の様子に注意を払っている」、小学5年生と中学2年生ともに経験を問わず「12. 海は人間が生きていくうえで、大切なものであると思う」「21. 海を大切に扱う思いやりが必要である」が確認できますが、経験者ほど高い数値を示しています。

インフォーマルな教育力とフォーマルな教育力を比較できるのは鎌倉一中のL群、M群、N群、O群です。最もウォータースポーツに関与するO群は4ポイント以上となる項目は27項目中の16項目を数え、高いオーシャン・リテラシーを示します。これに対してウォータースポーツにインフォーマルにもフォーマルにも参加していないL群では「12. 海は人間が生きていくうえで、大切なものであると思う」「21. 海を大切に扱う思いやりが必要である」の2項目にとどまります。

これらの2グループの動向を踏まえた上で、M群とN群の比較はインフォーマルとフォーマル、地域と学校の教育力を比較する格好の材料となります。統計的な有意差は認められませんが、M群がN群を22項目で上回る結果となりました。M群は8項目で、N群は4項目で4ポイント以上獲得します。

とりわけ、「2. 海で活動するとき、天気や海の

【表4-a】 鎌倉市小・中学生のオーシャン・リテラシー・サーベイによる海の理解度

	F群	G群	H群	I群	J群	K群
	学年別・学校別×Wsp 経験別					
	小学5年生		中学2年生		鎌倉一中	
	なし (n=83)	あり (n=399)	なし (n=114)	あり (n=132)	なし (n=86)	あり (n=110)
1. 海で泳いだり、海岸で走ったり歩いたり、磯場で遊んだりといった活動をよくする	2.66	3.51	2.37	3.08	2.49	4.06
2. 海で活動するとき、天気や海の様子に注意を払っている	3.57	4.07	3.50	3.95	3.80	3.69
3. 海のことを知りたいと思う	3.06	3.65	3.06	3.33	3.16	3.52
4. 海はわたしをゆったりとした気分にさせてくれる	2.95	3.40	3.05	3.57	3.56	3.85
5. 海について、天気が良くなったり悪くなったりするのを予測することができる	1.58	2.14	1.73	2.11	2.12	2.66
6. ボートや船を操縦したことがある	1.58	2.15	1.44	1.99	2.01	2.19
7. 海の流れ方や潮の満ち引きを知っている	2.35	2.75	1.89	2.39	2.46	3.20
8. 海の歴史を知っている	1.61	2.20	1.77	1.90	2.21	2.44
9. 海が人に与える影響について知っている	2.22	2.90	2.73	3.07	3.14	3.71
10. 自然にできた海岸の大切さを知っている	2.95	3.42	2.81	3.19	3.36	4.10
11. 海での活動に合った服装を選ぶことができる	3.30	3.65	3.68	3.86	3.61	4.46
12. 海は人間が生きていくうえで、大切なものであると思う	4.40	4.61	4.35	4.86	4.40	4.95
13. 海での事故や怪我の時に対応ができる	2.22	2.93	2.46	2.73	2.65	3.32
14. ロープや紐を使って、2つ以上の結び方ができる	2.94	3.79	3.19	3.16	3.34	3.72
15. 海と気候の関係をよく知っている	2.16	2.61	2.23	2.34	2.48	2.96
16. 海の微生物（プランクトンなど）をよく知っている	2.53	3.00	2.11	2.45	2.33	2.79
17. 人々の暮らしが海に与える影響について知っている	3.11	3.48	3.16	3.34	3.39	4.00
18. 海の環境問題について関心がある	3.02	3.15	3.10	3.37	3.33	3.79
19. 海で安全に活動する自信がある	3.18	3.38	2.93	3.02	3.22	3.76
20. 「海を使うこと」と「海を守ること」のバランスをとる必要がある	3.87	3.93	3.71	3.83	3.90	4.09
21. 海を大切に扱う思いやりが必要である	4.22	4.30	4.17	4.22	4.05	4.50
22. 海でたくさんの経験がある	3.12	3.87	2.50	3.10	3.09	4.10
23. 船の種類や名前についてよく知っている	1.46	1.85	1.56	1.71	1.79	2.05
24. 海の潮の流れについて説明できる	1.53	1.95	1.42	1.65	1.93	2.43
25. 鉱物やエネルギー資源が海底に多くあることを知っている	2.07	2.68	2.47	2.45	3.10	3.60
26. 海では守らなければならないいきまりごとがあることを知っている	3.84	3.97	3.53	3.60	3.73	4.32
27. 浅い海が重要であることを知っている	2.73	3.33	2.55	2.63	2.89	3.31

様子に注意を払っている」4.22ポイント、「4. 海はわたしをゆったりとした気分させてくれる」4.33ポイント、「12. 海は人間が生きていくうえで、大切なものであると思う」5.33ポイント、「14. ロープや紐を使って、2つ以上の結び方ができる」4.44ポイント、「18. 海の問題について関心がある」4.22ポイント、「25. 鉱物やエネルギー資源が海底に多くあることを知っている」4.33ポイントと、M群が他の3群より高い数値を示し、フォーマルな教育効果をうかがい知る結果となります。

これに対して、インフォーマルな関与を確認できない附属鎌倉小学校では27項目中11項目で4ポイント以上を獲得して、高いオーシャン・リテラシーとフォーマルな教育効果を確認できます。

さて、横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校では、2010年度より海洋教育プロジェクトを推進しています。運動やスポーツを中心に挑戦的な体

験プログラムを通じて、自分の能力を感じ取り、やればできるという感覚を促進する自己有能感や効力感の重要性が指摘されます。本年度の海洋教育プロジェクトではウインドサーフィンやパドルボードを体験しました。ウインドサーフィンやパドルボードを操作する時点では、他人の力はまったく借りません。その点で、自分自身の力をダイレクトに感じ取れるプログラムとなります。

3年～5年生がこのプログラムを体験する前後に回答した自己効力感21項目の4段階自己評価を比較しました(表5)。事前・事後調査ともに、「1)何かをするときは自信を持っておこなう」「4)ものごとをおこなったあと、うまくいったと感じることが多い」「5)友だちよりも劣っている能力もあるが、すぐれている能力もある」「8) なにかをするとき、なんとなく、うまくいきそうな感じがする」「21) 周りの人がおこなったのをみてからおこなう

【表4-b】

鎌倉市立第一中学校と横浜国立大学附属小学校のオーシャン・リテラシー・サーベイによる海の理解度

過去1年間のウォータースポーツの経験有無 ふれあいタイムでウォータースポーツ選択有無	L群	M群	N群	O群	P群
	鎌倉第一中学校				附属小学校
	なし	なし	あり	あり	あり
	なし	あり	なし	あり	-
	(n=77)	(n=9)	(n=74)	(n=36)	(n=300)
1. 海で泳いだり、海岸で走ったり歩いたり、磯場で遊んだりといった活動をよくする	2.39	3.33	3.80	4.63	4.28
2. 海で活動するとき、天気や海の様子に注意を払っている	3.75	4.22	3.58	3.92	4.13
3. 海のことを知りたいと思う	3.09	3.78	3.15	4.29	4.29
4. 海はわたしをゆったりとした気分させてくれる	3.47	4.33	3.65	4.28	3.99
5. 海において、天気が良くなったり悪くなったりするのを予測することができる	2.06	2.56	2.54	2.92	2.69
6. ボートや船を操縦したことがある	1.89	3.00	2.19	2.19	3.80
7. 海の流れ方や潮の満ち引きを知っている	2.36	3.33	2.92	3.80	3.45
8. 海の歴史を知っている	2.12	3.00	2.34	2.64	2.39
9. 海が人に与える影響について知っている	3.05	3.89	3.49	4.17	3.12
10. 自然にできた海岸の大切さを知っている	3.25	4.22	3.88	4.56	3.86
11. 海での活動に合った服装を選ぶことができる	3.62	3.56	4.37	4.64	4.20
12. 海は人間が生きていくうえで、大切なものであると思う	4.29	5.33	4.94	4.97	4.86
13. 海での事故や怪我の時に対応ができる	2.57	3.33	3.17	3.63	3.45
14. ロープや紐を使って、2つ以上の結び方ができる	3.20	4.44	3.90	3.36	4.51
15. 海と気候の関係をよく知っている	2.41	3.11	2.68	3.53	3.03
16. 海の微生物(プランクトンなど)をよく知っている	2.29	2.67	2.51	3.36	3.64
17. 人々の暮らしが海に与える影響について知っている	3.28	4.22	3.89	4.23	3.61
18. 海の問題について関心がある	3.23	4.22	3.67	4.03	3.28
19. 海で安全に活動する自信がある	3.18	3.56	3.53	4.23	4.02
20. 「海を使うこと」と「海を守ること」のバランスをとる必要がある	3.95	3.50	3.84	4.61	4.22
21. 海を大切に扱う思いやりが必要である	4.07	3.88	4.21	5.08	4.58
22. 海でたくさんの経験がある	3.00	3.88	3.79	4.72	4.42
23. 船の種類や名前についてよく知っている	1.69	2.75	1.83	2.47	2.41
24. 海の問題の解決について説明できる	1.82	2.78	2.14	3.00	2.26
25. 鉱物やエネルギー資源が海底に多くあることを知っている	2.95	4.33	3.32	4.17	2.75
26. 海では守らなければならないいきまりごとがあることを知っている	3.68	4.11	4.11	4.74	4.35
27. 浅い海が重要であることを知っている	2.76	4.00	2.92	4.11	3.59

ほうだ」の5項目の平均値が高いことがわかります。「うまくいったと感じる」ので、「何かをするときには自信を持って」臨み、「なんとなく、うまくいきそうな」期待が高まる好循環が見てとれるとともに、「友だちよりも劣っている能力もあるが、すぐれている能力」を客観的に評価するので、「周りの人がおこなったのをみてからおこなう」傾向があることもわかります。主眼となる事前・事後調査比較では

「(4) ものごとをおこなったあと、うまくいったと感じることが多い」のみに有意差が認められます。したがって、海洋教育プログラムが自己効力感を刺激する結果は得られませんでした。昨年の2年、3年、4年生時点ですでに海洋教育プログラムを体験しており、彼らがすでに高い水準の自己効力感を有しているのかもしれませんが。

【表5】

海洋教育プログラム体験前後の自己効力感の変化（横浜国立大学附属小学校）

	事前調査	事後調査
	平均値	平均値
1) 何かをするときには自信を持っておこなう	3.05	3.12
2) 前の失敗やいやなことを思いだして暗い気持ちになる	2.35	2.29
3) 友だちよりもすぐれた能力がいくつかある	2.51	2.53
4) ものごとをおこなったあと、うまくいったと感じることが多い	2.74	2.91
5) 友だちよりも劣っている能力もあるが、すぐれている能力もある	2.74	2.83
6) ものごとをおこなったあと、失敗したと感じることが多い	2.25	2.11
7) みんなの前で、言いたいことを言うほうだ	2.31	2.34
8) なにかをするとき、なんとなく、うまくいきそうな感じがする	2.73	2.85
9) 人よりも、ものを覚えることが不得意である	2.17	2.21
10) なにかをするとき、うまくいかないのではないかと心配になる	2.40	2.28
11) みんなの前で、言いたいことは言わないほうだ	2.44	2.43
12) 人よりも、ものを覚えることが得意である	2.55	2.56
13) 結果がどうなるかわからなくても、自分からすすんで取り組んでいくほうだ	2.69	2.70
14) どうしたらよいか決められなくて、ものごとに取りかかれなことがある	2.32	2.32
15) 友だちよりも、ものしりである	2.19	2.14
16) どんなことでも、自分からすすんでこなすほうである	2.44	2.43
17) 小さな失敗でも人よりずっと気にするほうだ	2.29	2.34
18) 自分からすすんで活動するのは、にがてである	2.40	2.35
19) 自分は世の中で役に立てる人間だと思う	2.27	2.28
20) 小さな失敗は気にならない	2.51	2.48
21) 周りの人がおこなったのをみてからおこなうほうだ	2.73	2.68

提案

4

授業に海洋教育を導入するために

#1

実施体制の構築

役割分担の重要性

海洋基本法に定められている「学校教育および社会教育における海洋に関する教育の推進」という国の方針を実現するための一つの方法として、今回私達が「ふれあいタイム」において行ったウォータースポーツを小中学校の授業に取り入れることが有効です。しかしながら、ウォータースポーツを学校教育に取り入れることは、個々の学校だけでできるものではありません。指導員や機材の確保ができ、安全管理などのノウハウを持った協力団体の存在が不可欠です。そして、そのような協力団体の育成や管理を行い、学校とのマッチングを図るのは、教育委員会をはじめとした行政の役割といえるでしょう。行政が主導的な立場で、協力団体と積極的な連携を図り、指導員の育成や安全管理の指針を作成すべく動いていただくことなしに、海洋教育が学校教育として定着することはありません。

また学校においては、まず海洋教育の意義を理解

し、海やウォータースポーツから何を体験させ、学ばせるのかを見定めなければなりません。そうして教職員の認識を統一すると共に、父兄や児童・生徒の理解を得る必要があります。

このように、海洋教育を学校教育に取り入れるためには、行政および学校がそれぞれに果たすべき役割があり、それらは順を追って実現して行かなければなりません。次のページから、まず、行政および学校が果たすべき役割を整理します。



行政が果たすべき役割：4つのステップ

STEP
1

ウォータースポーツへの理解を深める

海洋教育現場の視察およびウォータースポーツを実際に体験することを通して理解を深めていただくことが最初のステップです。

STEP
2

地域の各種団体との協力体制の構築

海洋教育を行うにあたって必要なノウハウや機材を有する団体や海洋教育に適した施設を確保するため各地域の協力団体となりうる各種スポーツ協会や運営団体などと交流を図り、実施に必要な環境づくりを行います。

STEP
3

協力団体と連携し指導員を養成する

海洋教育に欠かせないのが、質の高い指導員の確保です。協力団体が、個々に学校教育に必要な指導員を養成・確保することは容易ではありません。指導員の養成や確保に向け、情報提供や団体同士の連携などを行うため地域に根ざした環境整備が必要です。

STEP
4

安全管理の指針策定

海には、一定の危険や不測の事態がつきものです。しかしそれは適切な対策や管理体制をとることで回避することが可能です。教育の現場である以上、その管理に一定の基準が必要です。

P O I N T

指導者に求められる資質

指導員は、各種ウォータースポーツの指導経験のほか、当日の参加者の受け入れや、準備、引率、あるいは緊急時の対応などの役割分担を事前に打ち合わせ、適切に行動できるようにする必要があります。

さらに、海は天候やコンディションが変化しやすい場所でもあることから、それらの状況に注意を配り、適切に行動するために指導者のレベルが問われます。

安全を管理する上で想定すべき要件

ふとしたことで溺れたり、危険な生物に触れたりするなど怪我や事故の危険はどんなに準備してもなくすことはできないため、緊急時の準備を怠ることはできません。ボートや水上バイクといったレスキュー体制の準備はもちろん、救急箱も用意しておくと共に、救急病院などの連絡先を確かめておき、緊急時の連絡体制や指導者の役割分担、他の参加者のケア、授業の続行・中止の判断などについても取り決めておく必要があります。また、緊急時の救命措置などの講習を受けたり訓練をしたりしておくことも重要でしょう。万一の事故対応用の保険加入が必要です。それについても一定の基準が必要でしょう。

また当日は、危険な場所に近寄らない、危険な行為をしないなど、事前に注意事項をピックアップし、伝える必要があります。さらに強い日差しに対する対処（日焼け止め、帽子、飲料等）や危険生物、怪我などに対する対処は事前の告知も含め必須です。

さらに、天候や風、波などの状況により開催の可否を判断しなければならず、中止すべき条件を予め確認し運営サイドと学校の共通認識とします。そのため海の状況確認を怠らず、いつでも中止できる体制を整えなければならないでしょう。

学校が果たすべき役割：4つのステップ

STEP 1

ウォータースポーツへの理解を深める

海洋教育現場の視察およびウォータースポーツを実際に体験することを通して理解を深めていただくことが最初のステップです。

STEP 2

教育目的を明確にする

海洋教育を通して、児童・生徒に何を体験させ、そこから何を学ばせるのかを決めなければなりません。一言で海洋教育やウォータースポーツといってもさまざまな種目があります。目的によって適した種目が異なり、人数や時期、場所などによっても実施可能な種目が異なります。そして、「何を目的とするのか?」「人数は?」「時期は?」などを明確にしないとどのような団体に協力を仰ぐべきかも決まりません。

STEP 3

教職員、父兄、児童・生徒への周知

実施に向けて教職員の意識を合わせ、父兄や児童・生徒に対し目的や意義などを理解していただく必要があります。実験的に一部のクラスで開催したり、希望者に週末や夏休みを利用して海洋教育を体験してもらったりすると有効です。父兄で参加するイベントなら、指導内容や安全対策に対する理解を深めることができます。

STEP 4

実施計画の作成、内容の決定

行政や協力団体と協議の上で実施内容を決定しなければなりません。STEP 2. で決めた目的に従い、この後で説明する様々な種目の中から「何を行うのか?」「どのような座学と組み合わせるのか?」など具体的な実施内容を決めます。もちろん場所によって適した種目が異なり、内容により指導員の人数、必要な機材、安全対策なども異なるので、協力団体との協議が欠かせません。

REFERENCE

教職員体験の実施例

チャレンジスポーツクラブでは、2011年度に神奈川県内の複数の公立小学校教職員の方々を対象に、ウォータースポーツを体験して頂きました。それぞれ学校からの要望を受け実施しているものですが、行政との連携を深めることで、このような機会を増やしていけるでしょう。

このような体験会は、週末や夏休みで事前に計画すれば、教職員の参加も可能となります。費用負担が行政と学校の課題となるでしょう。

今回、体験していただいた教職員の方々のご感想やご意見を36ページに掲載しています。参考にしてください。

海洋教育導入への流れ

実際に、海洋教育を学校教育に取り入れるにあたって、行政及び学校の役割を重ねあわせ、各段階で決定すべき内容を整理してみましょう。

最初に必要なのは、協力団体を見つけることです。なぜなら、海洋教育を学校に導入するために行政機関および学校ともに最初にクリアすべきステップに上げた「ウォータースポーツへの理解を深める」ための体験や視察をする場合でも、あるいは導入に向けて具体的に動く場合でもとにかく協力団体の存在が不可欠だからです。選択肢は、できるだけ

多いほうがいいでしょう。すでに述べたようにこの役割は行政が果たすべきであり、教育委員会などのスポーツ担当部局が、学校と各団体とのマッチング機能を持つことが理想です。しかし、それはこれからの課題であり、すぐに体制を整えることが容易でないことは理解しています。現状では、個々に状況が全く異なるため、ここでは協力団体が決定している、あるいは選択肢がある状況から実施までの流れを追います。

検討段階	導入のための検討	決定すべき内容
	目標・対象を明確にし 課題を整理する	<input type="checkbox"/> 何を学ばせるのか？ <input type="checkbox"/> どのぐらいの時間を費やすのか？ <input type="checkbox"/> どこで？ <input type="checkbox"/> いつ？（時期） <input type="checkbox"/> だれを？（学年、選択 or 全員参加） <input type="checkbox"/> 費用負担は？
	代表者・担当者に対する体験会の実施	対象
	講義の体験を通して、学習内容を理解し、安全対策を確認する	<input type="checkbox"/> 教職員 <input type="checkbox"/> 父兄 <input type="checkbox"/> 児童・生徒
導入段階	実施方法の検討	決定すべき内容
	目的にあわせた実施内容を選定する	<input type="checkbox"/> PTA への説明（保護者の理解） <input type="checkbox"/> 時期・回数・対象者の検討 <input type="checkbox"/> 協力団体の選定・委託内容の検討 <input type="checkbox"/> 費用の算出と負担方法の決定
	実施マニュアルの作成	決定すべき内容
	協力団体と具体的な協議を行い内容を決定	<input type="checkbox"/> 講義内容（実技種目／座学内容） <input type="checkbox"/> 実施スケジュール <input type="checkbox"/> 参加人数 <input type="checkbox"/> 安全対策の確認、徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・協力団体が行う対策 ・学校が行う対策 ・家庭で行う対策 <input type="checkbox"/> 開催の可否（天候などによって開催が危ぶまれる場合、「誰が」「どのような基準で」「いつまでに」判断するか？ 連絡・伝達方法は？ など） <input type="checkbox"/> 保険 <input type="checkbox"/> 持ち物

実施種目のバリエーション

海洋教育をより効果的なものとするために、必要な教育コンテンツは、時期、時間、参加人数、学年などに合わせ適切な内容を選択する必要があります。実施可能な主な種目を特性と併せ紹介します。



主な種目と適した学年

種目	学年				特徴（実施の条件や制限事項など）
	低学年	中学年	高学年	中学生	
各種ウォータースポーツ	○	○	◎	◎	海のコンディションによって種目を選択可能。学年によって使用する機材やスタッフの人数などが変動します。詳しくは個々の種目を参照して下さい。
漁体験	△	△	◎	◎	船を使つての漁を行うのは、大人数の場合難しい。大人数の場合や低学年、中学年は地引網を行うなどの選択肢もあります。
クルージング	○	○	◎	◎	船に乗って「沖の海の様子を知る」「自分たちの住んでいる街を海から見る」「漁の様子を見学する」など、参加人数や学年によってテーマを決めて実施することができます。
磯・海洋生物観察	◎	◎	◎	◎	条件が整えば、学習効果は高いですが、潮の干満や潮位などにより磯観察に適した時期や時間は限定されるなど、自然条件に左右されます。
海岸に流れ着く海藻の観察	◎	◎	◎	◎	海藻に限らずゴミや生物など漂着物全般を対象にすることができます。時期により漂着物の量、種類が異なります。
ビーチコーミング	◎	◎	◎	◎	事前に予備知識を与えるなど座学と結びつけると効果が高まります。また、ゲーム性を持たせるなど飽きさせない工夫が必要となるでしょう。

各種目の適したシーズン

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
各種ウォータースポーツ													
漁体験													時期により釣魚は異なる
クルージング													
磯・海洋生物の観察													大潮の干潮時刻前 1-2 時間
海岸に流れ着く海藻の観察													
ビーチコーミング													

各種ウォータースポーツ

■目的／学習内容

自然の中で行うウォータースポーツは自然の力や環境について考え、意識改革を行う格好の教材です。自然との調和を図ると共に、安全に自然と触れ合う機会や方法を提供します。

water sports ①

ウインドサーフィン



種目特性●ボードとセイルが接続された専用の道具を使用し、風を受けたセイルに発生する揚力と波の斜面を滑り降りる推進力を主な動力として水面を滑走するスポーツです。

授業の特徴●風をとらえて、風の力だけで走ること、普段あまり意識することのない自然の力を身近に感じ、理解を深めることができます。また、力の向きや強さ、揚力など体験的に学習可能です。

DATA

スタッフ：インストラクター1人あたり生徒2～4人
(学年により変動有り)

必要機材：ウインドサーフィン用具一式
(学年やコンディションによりセイルサイズを調整)
ウエットスーツ
ライフジャケット
水上バイク・ボートなど救助用機材

water sports ②

スタンドアップ・パドル・ボード



種目特性●S.U.P.とも表記されます。大きなサーフボードの上に立ち、パドル（オール）を使って漕ぐスポーツです。長距離を移動する事も可能であり、波や風の無いフラットな海水面でも楽しむことができます。

授業の特徴●自分の力で岸から離れ沖に出てまた戻るといった達成感を伴う体験ができます。また海水浴やボートからでは見ることのできない海の様子を観察することができます。

DATA

スタッフ：インストラクター1人あたり生徒3～5人
(学年により変動有り)

必要機材：スタンドアップ・パドル・ボード用具一式
(ボード、パドル、リーシュコード)
ウエットスーツ
ライフジャケット
水上バイク・ボートなど救助用機材

water sports ③

ボディボード（サーフィン）

種目特性●ボードに乗って波の上を滑走するスポーツです。ボディボードは合成樹脂製のソフトなボードに腹ばいに乗るため、比較的安全で

手軽に楽しむことができます。中学生であればサーフィンも可能です。

授業の特徴●波の力や波の特徴を自らの身体で感じ、理解することができます。また波に乗り波の力に押されて滑走することで自然との一体感を味わうことができます。



DATA

スタッフ：インストラクター1人あたり生徒2～4人
(学年により変動有り)

必要機材：ボディボード用具一式(ボード、リーシュコード)
ウエットスーツ
ライフジャケット
水上バイク・ボートなど救助用機材

必要機材：マスク
スノーケル
フィン
ウエットスーツ
ライフジャケット
水上バイク・ボートなど救助用機材

water sports ⑤

ヨット



種目特性●帆走の原理はウインドサーフィンと同じです。ヨットに分類される船舶は多岐にわたっており種類、サイズが豊富で、乗員も1人乗りから10人以上まで様々です。

授業の特徴●ディンギーと呼ばれる1～4人程度が乗船できるタイプのヨットを用いればインストラクターと同乗し安全を確保しつつ、自ら舵を握って操船することができます。

DATA

スタッフ：インストラクター1人あたり生徒2～4人
(学年や使用するヨットにより変動有り)

必要機材：ヨット機装一式
ウエットスーツ
ライフジャケット
水上バイク・ボートなど救助用機材

water sports ④

スノーケリング

種目特性●マスクとスノーケルを着けて、泳いだり潜ったりしながら魚や海の中の様子を観察します。



授業の特徴●子供に海や海洋生物への興味を持たせるのに特に有効です。S.U.P.などと組み合わせることで、広い範囲の観察も可能となります。またお風呂でスノーケルを使った呼吸の練習をするなど家庭と一体となった課題を設けることもできます。

DATA

スタッフ：インストラクター1人あたり生徒3～5人
(学年により多少変動有り)

water sports ⑥

ライフセービング

種目特性●一般的には、水辺の事故防止のため

の実践活動であり、競技種目でもあります。競技種目として、サーフ種目とビーチ種目がありますが実際の救助活動に要求される要素をベースとしています。

授業の特徴●最も有名なのはビーチフラッグスですが、たくさんの種目があるので、コンディションや人数によって種目やその組み合わせを変える事ができます。



DATA

スタッフ：ビーチ種目／インストラクター1人あたり生徒10～20人
サーフ種目／インストラクター1人あたり生徒3～5人
(学年や行う種目により変動有り)

必要機材：行う種目に必要な機材
(サーフ種目の場合)
ウエットスーツ、ライフジャケット
レスキューチューブ、レスキューボード
水上バイク・ボートなど救助用機材

れることが多く、広義ではカヤックはカヌーの一部とされることもあります。

授業の特徴●S.U.P.と同様ですが、どちらかという波・風・潮流等に影響されにくく機動力が高い反面、低学年などには扱いにくいです。

DATA

スタッフ：インストラクター1人あたり生徒3～5人
(学年により多少変動有り)

必要機材：カヤック用具一式(ボート、パドル、リーシュコード)
ウエットスーツ
ライフジャケット
水上バイク・ボートなど救助用機材

water sports ⑧

オープンウォータースイミング

種目特性●プールで泳ぐのとは異なり、自然の海や湖、川などで泳ぐため、体力を必要とし、海流や水流などを



意識しなければならず、知識やテクニックも必要とします。

授業の特徴●タイムを気にして他人と競うのではなく、自然を相手に「勇気」や「耐久力」を鍛え、また競技から離れスポーツ本来の楽しみを味わう事ができます。

DATA

スタッフ：インストラクター1人あたり生徒3～5人
(学年により変動有り)

必要機材：ウエットスーツ
ライフジャケット
レスキューチューブ、レスキューボード
水上バイク・ボートなど救助用機材

water sports ⑦

カヤック (カヌー)



種目特性●カヤックとはダブルパドルで漕ぐ小型の舟のことです。これに対しシングルパドルで漕ぐ舟をカヌーといいますが、両者は混同さ

water sports ⑨

ビーチバレー

種目特性●砂浜にネットを張ったコートで二人一組のチームで対戦するバレーボールから派生

ビーチサッカー

種目特性●砂浜で行うサッカーで、1チーム5人、12分×3ピリオドで行われる。コートは37m×28mで一般的なサッカーの1/7程度の面積。独自のルールも多く、特に選手の交代回数に制限がないことが特徴。

授業の特徴●通常のサッカーよりも経験者と初心者との差が現れにくく、交代しながらより多くの参加者がボールを追うことができる。

DATA

スタッフ：コート1面あたりインストラクター2人
必要機材：ライン用のロープ、コーン、ゴール、ボールなど

した球技で、オリンピックの正式種目です。
授業の特徴●怪我をしないようにビーチをクリーニングする必要があるためビーチコーミングなどとあわせて実施するといでしょう。チームの人数やポイント数、セット数などを調整することができるので自由度が高いです。

DATA

スタッフ：コート1面あたりインストラクター1人
必要機材：ネット、ライン用のロープ、ボールなど

REFERENCE

他地域での海洋教育実施事例

『沖縄大学人文学部こども文化学科・教職課程』

沖縄大学人文学部こども文化学科の教職課程において、2011年度からスノーケリングがカリキュラムとして導入されています。これは、広島マリネットダイビングクラブの代表であり、沖縄大学の非常勤講師を務める弘中満雄氏が数年前より準備を始め実現にこぎつけたものです。

自然に恵まれ、特に豊かな海に恵まれているながら、沖縄では海で泳いだり、海をレジャーのフィールドとする意識が低いと感じている弘中氏が、将来教員として子どもと接する学生に、ウォータースポーツや海洋教育の重要性を認識してもらうために始めました。将来、教員として学校の授業にウォータースポーツや海洋教育を取り入れる事の



できる指導者の育成を目的としています。

2012年度から中学校や高校の教諭を養成

するコースが新設されることで、海洋教育の重要性を熟知した教員の育成にますます期待が高まっています。



弘中満雄

広島マリネットダイビングクラブ代表
沖縄大学・広島大学・広島修道大学他の非常勤講師としてスノーケリングやスクーバダイビング、水中観察方法の授業をおこなう。
日本体育協会ダイビング上級指導員、NAUIコースディレクター、自然観察指導員、日本赤十字社救急指導員

主な活動

- ・ダイバー養成、スノーケリング指導者の養成、ダイビング指導者の養成
- ・子ども向けのスノーケリング教室、海のエコツアー・エコキャンプの企画・指導

子どもたちが海に親しみ理解がすすむよう、釣り、カヤック、スノーケリングなどのマリンスポーツの実施と、みりん干し作り、塩作り、ところてん作りなどの食文化理解への取り組み、海岸清掃やビーチクラフト、ビーチコーミングなどの活動も行っている。

漁体験

■目的／学習内容

漁船に乗り込んでの漁体験や見学、あるいは地引網などを行い、身近な海で実際に採れる魚を目にし、触れることが可能です。自分たちが日頃食している魚がどのような生態をもち、誰がどのように捕獲することで食卓に並ぶのかを知ることができます。とれた魚の観察や魚のさばき方、バーベキュー等も可能です。

■特徴／課題

船を使つての漁は、大人数を受け入れるのは難しい。地元の漁業協同組合や漁師の理解・協力が必要です。時期により取れる魚、漁の仕方が変わります。



DATA

スタッフ：インストラクター1人あたり生徒3～5人
(学年により変動有り)
必要機材：ライフジャケット

クルージング

■目的／学習内容

漁船等に乗って、沖合の海の様子や海岸線を観察します。普段見慣れているはずの自分たちが住む街を、角度を変えて見ることで再認識し、地理的条件や歴史、環境問題などに目を向けることができます。

■特徴／課題

船の手配や安全対策が重要。地元漁協や漁師の理解協力が必要です。

DATA

スタッフ：インストラクター1人あたり生徒3～5人
(船の大きさにより変動有り)
必要機材：ライフジャケット

磯・海洋生物の観察

■目的／学習内容

身近にある磯の生態系を観察し、生き物に触れる貴重な機会となります。水槽に捕獲した生物を入れ、生態系を再現し観察することも可能です。生命の大切さを伝えたり、自然環境への興味を促したりすることができます。



■特徴／課題

潮位により開催する時間、時期が限られます。磯観察に適しているのは、春から夏にかけての大潮前後の最干潮時刻前1～2時間です。磯の生物は、漁業権により漁獲対象物の採集が制限されているので、漁業協同組合の承認が必要です。危険な生き物に触れるなど怪我のリスクがあります。

DATA

スタッフ：インストラクター1人あたり生徒5～10人
必要機材：軍手
濡れてもいい靴
バケツ
網、箱メガネ
水槽
ポンプなど

海岸に流れ着く海藻の観察

■目的／学習内容

春先に海岸に打ち上がる海藻は、意識しなければどれも同じように見え、海岸を汚す存在でしかありませんが、観察してみると様々な種類があり、拾った海藻を観察し、色や匂い、味の確認、スケッチなど五感をつかった体験につなげることができます。食用にできるものも少なくないので普段の食生活と絡めた知識の習得が可能です。

■特徴／課題

海水温が低く海に入る種目の開催が難しい2月、3月にも開催可能です。

DATA

スタッフ：インストラクター1人あたり生徒10～20人
(学年により変動有り)

必要機材：軍手
濡れてもいい靴
袋など

ビーチコーミング

■目的／学習内容

流れ着いたゴミを通して自然環境について考えたり、石や貝殻、流木などを使ってクラフトしたり、見つけた生物を観察したり、どこから、どうして流れ着いてきたのだろうかと思ったり… いろいろな楽しみ方ができます。

■特徴／課題

危険な場所には近づかないなど、予め行動範囲を決める必要があります。また、泳いだり、ふざけて友達を海に落としたりしないなどルールを徹底しましょう。危険生物や、まれに動物の死骸や液体の入ったタンクなどが漂着することがあるので注意が必要です。



DATA

スタッフ：インストラクター1人あたり生徒10～20人
(学年により変動有り)

必要機材：軍手
濡れてもいい靴
袋など

#4

主な座学の紹介

座学の目的

海というフィールドで活動する上で必要な、安全に対する基礎知識や、気象・海象といった実技と関連した内容を知識として学び、実際に体験・体感することで、興味を引き出し理解を深めることができます。また、海洋生物の観察やビーチコーミングな

ど実際に目にし、手に触れることのできる教材を使って講義をすることで、教科書や本からは引き出せない興味を引き出します。対象の学年に合わせて内容を変更しなければなりません。座学によって学習可能な主な内容を紹介します。

自然科学

■気象

天気予報と天気図

- ・低気圧・高気圧・前線などについて
- ・気圧配置と天気の関係について

風はなぜ吹くのか？

- ・風が吹くメカニズム
- ・風向・風速について

台風とは？

- ・台風とは？
- ・台風の特徴
- ・普通の低気圧と何が違うのか？
- ・天気予報の予想進路の見かた
- ・台風の大きさと強さについて

■海象

潮の満ち干き

- ・満潮と干潮
- ・月齢と潮の満ち干きの関係
- ・潮流などについて

波はなぜ起こるのか？

- ・波が起こるメカニズム
- ・波のサイズや種類について

■生物

身近な海にいる生物

- ・種類と生態系
- ・食物連鎖などについて

食育

- ・自然環境と食糧問題について

安全対策

■安全管理

危険回避の知識

- ・事故にあわないためにやるべきこと
- ・事故にあわないためにやってはいけないこと

装備

- ・ウエットスーツやライフジャケットの役割、重要性

危険生物

- ・身近にいる危険生物を知り、その生態から危険を避けるノウハウ
- ・遭遇してしまった時の対処について

■自然災害

津波

- ・津波警報発令時など災害発生時にとるべき行動について
- ・津波発生時の連絡手段（鎌倉マリンスポーツ連盟のオレンジフラッグの取り組みについて／63ページ資料6参照）

台風

- ・台風の被害
- ・進路と当該地域に予想される気象状況とその変化について

その他の注意報・警報

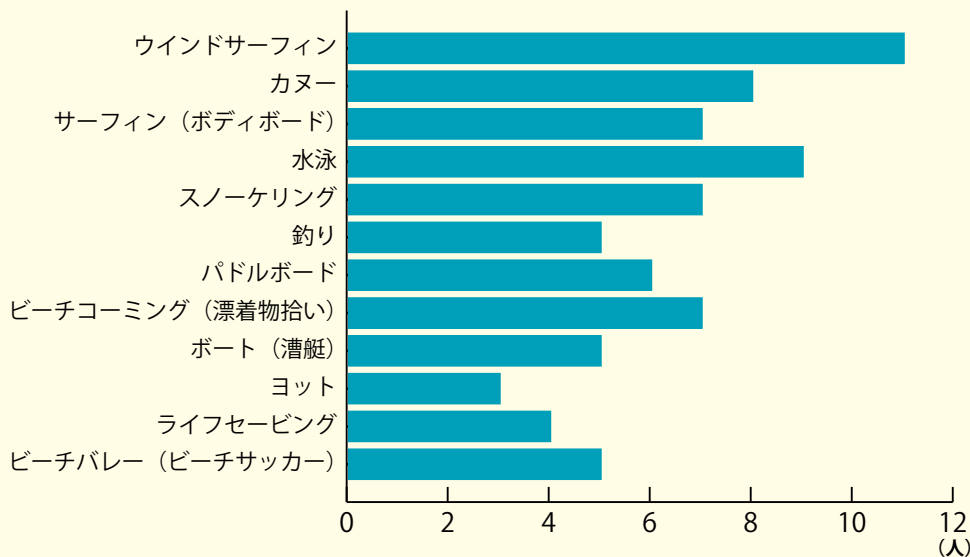
- ・強風や波浪など沿岸部で多い注意報・警報について

プログラム導入に関するアンケート

ウォータースポーツを授業に導入することを検討している神奈川県内の複数の公立小学校の教職員の方々が、私たちのプログラムを体験しています。体験後、学校教育に導入するための課題を検証するため、アンケートにご協力いただきました。

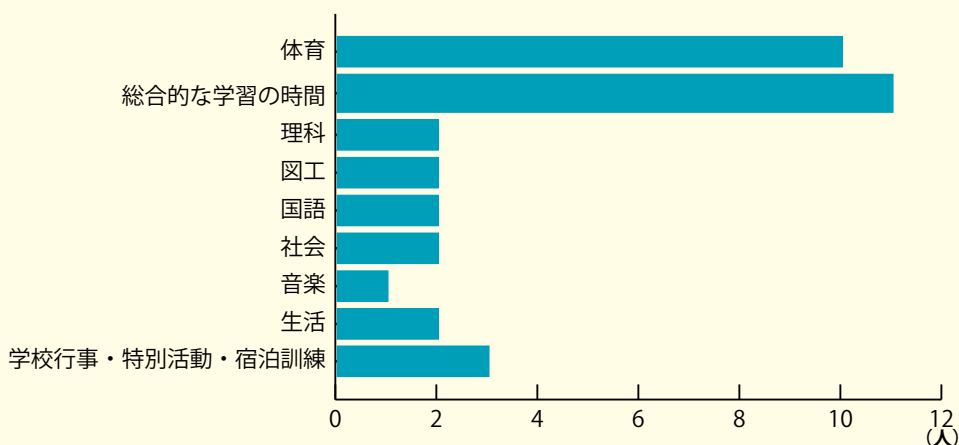
ウォータースポーツや海洋教育を授業に導入する意義、導入する上での課題、さらに体験した上での感想や、体験する前後の意識の変化など、大変参考になる意見が寄せられています。

学校教育の中で取り組みたいウォータースポーツ・海洋教育の種目はなんですか？



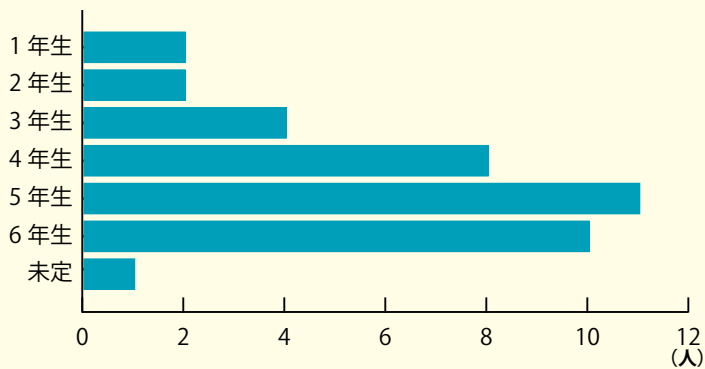
複数回答で選択していただいた結果です。この中で、最も取り組みたい種目として一つだけあげていただいた結果では、1.スノーケリング、2.ウインドサーフィン、3.水泳の順でした。また、自由回答であげていただいた種目には、「ダイビング」「生物観察」「安全教育」があります。

ウォータースポーツ・海洋教育を授業に導入する場合、どの単元で行うことが想定されますか？



複数回答で記入して頂きました。

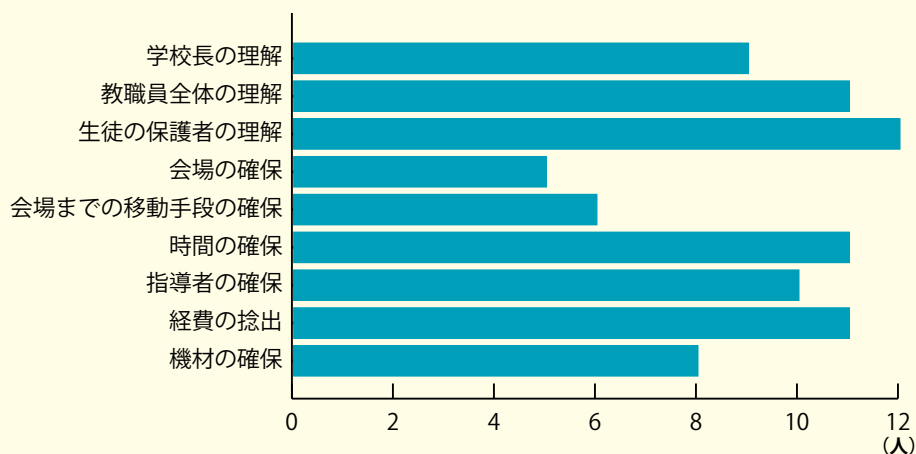
ウォータースポーツ・海洋教育を導入する場合、 どの学年を対象として想定していますか？



参加者の声

- 発達段階における体力面や学校、地域から離れる環境面。
- (ビーチコーミングは低学年からもできると思いますが) 海洋教育としてやっていくには高学年が良いと思います。体力的にも学習の発展を考えた上でも適していると思います。
- インストラクターの人数にもよるが、大人数の低学年の安全を確保するのは大変。6年生は忙しい？
- 安全性など危機管理面から社会科等で海のある地域の学習をした後に。
- 楽しみながら環境を身近に感じながら学べると同時に、健康・体力を養うこともできる。
- 全ての学年にそれぞれ対応したプログラムを取り入れれば可能だと思う(例：1年は水泳など段階的に)。
- 海は危険も伴うので、高学年の方が良いと考えました。
- 低学年のうちは、判断や技術の面で難しいと思われる。
- 自分の危機管理、話の理解がよくできると思う。
- 学年ごとにできることは違いますが、それぞれの学年ごとにプログラムを変えれば、年相応の興味関心を引けると思う。
- 低学年からでもやり方によって取り組みがあると思いますが、高学年を対象に行う方がしっかりと取り組めると思います。

ウォータースポーツ・海洋教育を授業に導入する際の 課題はなんですか？

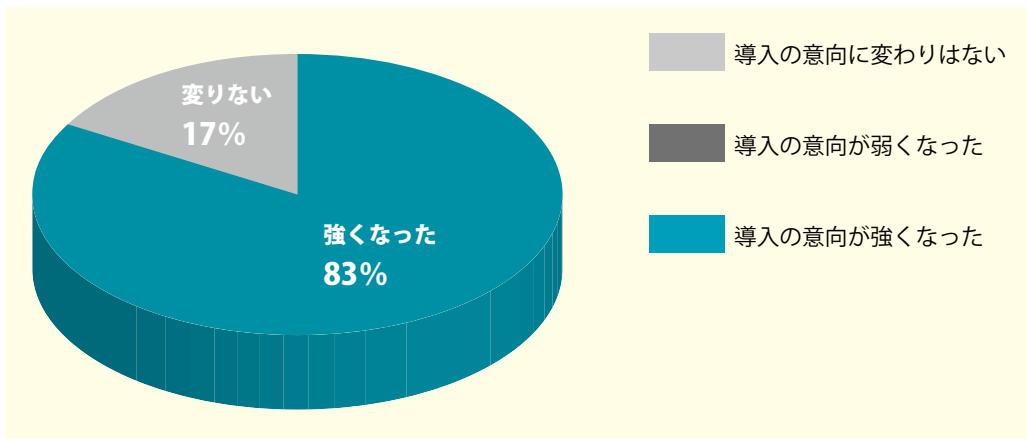


複数回答で選択していただいた結果です。この中で、「最も重要と考える課題は？」という質問には、1. 生徒の保護者の理解、2. 教職員全体の理解、3. 経費の捻出の順でした。また、自由回答であげていただいた課題は、「子供の意識」「子供の意欲・関心」「学校カリキュラム」「手軽さ」「安全面の理解」「教職員自身の救命技術工場」でした。



実際に体験してみて、

ウォータースポーツ・海洋教育を授業に導入する意向に変化はありましたか？



「導入の意向が強くなった」「導入の意向が弱くなった」「導入の意向が変わりはない」の3つの選択肢の中から回答をいただきました。体験後「導入の意向が弱くなった」と答えた方はいらっしゃいませんでした。

参加者の声

- 身近になったことが一番の理由。スクールへの敷居が低くなったことが、大きいです。
- 今日のようにしっかりポイントを教えていただければ楽しめると思います。
- やはり、安全面とカリキュラムへどのように入れるかがポイントとなると思います。
- 普段、あまり体験できないことや自然と一体になって、身体を動かすことで心身共に育成できるのではと思いました。
- すでにやっている所があるのなら、自校もやってみたい。
- 新しいことへの挑戦を楽しめた。体験を通して視野が広がる。
- 様々な課題をクリアすれば、実りある体験になると思います。
- 課題をクリアすれば、とても良い体験となる。
- 様々な課題をクリアすれば、ぜひ行いたいと思う。
- 素直に楽しいですし、今の子どもは自然で遊ぶ経験が圧倒的に少ないので、ウォータースポーツを是非子どもに体験させたいと思います。
- 海洋教育の素晴らしさを体験し、子どもたちと一緒にできたらという思いを強く持ちました。



参加者の声

●とてもいい時間をすごさせていただきました。ぜひ子どもたちにも体験させてあげたいと思いました。費用がとてもネックになるかなと思います。交通費やレンタル代など、1,500～2,000円をこえるときびしいというのが現状です。

●大震災の後で、海でのスポーツを積極的に取り組めない現状です。(宿泊体験学習で)伊豆へ2泊3日で行くのですが、そこではカッター、カヤック、つり、砂の造形などに取り組んでいます。安全面とカリキュラムを確保すれば、実施可能だと思います。

今年度から新学期指導要領の完全実施なので、今年度または(来年度までには)取り入れるカリキュラム提案が必要だと思います(身につけたい力や、目標の明確化)。

●ウォータースポーツを学校教育に取り入れることの意義を明確にすることが重要かと思います。順位を競ったり、上手下手を比べるのではなく、海洋体験ならではの学びがあると思いました。

たとえば自分の思い通りにならない自然環境の大きさ、こわさ、海の中に居るこちよさ、海の生き物がいることの実感など。

なにより自然の中で時間を過ごすという体験が、今後子どもたちが自然体験をこわがらずにするための下地となり、自然体験へと踏み出すときのかべをとり除いてくれるのだと思いました。

ウインドサーフィンをするばあい、できない子、のれない子が嫌にならない工夫が必要だと思います。

●ウォータースポーツは海に近い地域にはとても馴染みやすいプログラムだと思います。しかし海から遠い地域や、海のない自治体でいかに普及させていくかが難しいと感じました。ウォータースポーツ・海洋教育の特性や意義が教育に大きな影響がある！ということを全国に発信して下さい。本日はありがとうございました。

●もっと若い時(10代)にやってみたかった。

子どもたちと一緒に取り組んだらどうかと考えたら、様々な課題はさておき、楽しいことは間違いないが、小学校時代の一生の思い出になるだろうと思った。是非、導入したい。

●ウォータースポーツ・海洋教育が、気候・生物・環境・人命その他様々な要素を含んでいるということを改めて知り、とても興味深かった。私自身、沿岸部の出身にも関わらず、学校で海と関わる授業が行われたことがなかったので、今後これが小学生に広がるのが楽しみであると同時に、うらやましく、また海に関心をもった子が増えてほしいと思った。本当にどうもありがとうございました。

●今日は1日ありがとうございました。初めてのウインドサーフィンでしたが、とてもいいに教えてくださって、

楽しく体験することができました。

子どもたちも、このような体験をすれば、とても喜ぶし、海に関する様々な学びも得られると思います。しかし、教員や保護者の理解はもちろん、経費の面など、そして安全の面などで、周りから支援体制を作っていかなければ難しいとも思いました。本当にありがとうございました。

●人数の多い指導を行う場合は、その分指導者の人数も確保する必要があると感じた。技術を教えながら、それぞれの児童の居場所の把握、安全の確保がウォータースポーツ・海洋教育を行う際、一番心配である。夢中になりすぎて流され、ということは、避けたい。ウインドサーフィンの体験はじめ、難しいけれど、慣れてくると楽しく、児童も夢中になれそうだと思う。

●5、6年生の宿泊訓練の中で、ウォータースポーツを行うと、子どもたちは楽しみながら、体験できると思う。

またボート、カヌー等であれば、協力しながら海の上で体験するという、利点があると思う。

波の感覚や潮風、海の中の自然に触れることで、子どもたちの感覚は豊かになると思うし、ウォータースポーツの達成感、楽しさを味わうことができると感じた。

●現実、保護者の理解を得るのが、ウォータースポーツ導入には大きな課題となるのではと思います。学校現場でも海の近辺に行くときは必ずラジオを持ち、避難場所を想定しています。それほど保護者の心配はいまだに大きいのかもかもしれません。ただ一方で、遊び場を求めている家庭も多いので、参加型で夏休みなどに企画できたら良いなと思います。

●東日本大震災があり、海での安全確保・津波などにおける学校の安全確保について、今一度再検討している学校の姿があります。そこをクリアして、教職員全体で海洋教育の導入について考えていくことで、実現につながるのではないかと考えています。

●導入時は、希望者だけが参加できるような対応、総合学習の指導計画への柔軟な対応が可能であれば大変助かります。

フリーディスカッション

私たちのプログラムを体験して頂いた公立小学校の教職員の方々にご協力いただき、アンケートとは別に体験後の感想や体験に向けての思いなど、フリーディスカッション形式で、自由に意見を述べて頂きました。

参加していただいたのは、導入に向け積極的な考えを持った方々ばかり。だからこそ感じる課題や体験してみたからこそわかる、魅力や課題など生の声を聴かせて頂きました。2つのグループのディスカッションを紹介します。

Discussion 1

体験会開催：2011年9月11日



神奈川県内の公立小学校の教職員が参加。ウォータースポーツを授業に導入したいというニーズが高く、自ら体験を希望した方々。



ウォータースポーツ・海洋教育に対して期待する成果は何ですか？



●校外学習は子ども達にとって重要。サッカーや野球はやっている子どもが上手い。しかし、ウォータースポーツの場合は、全員が同じ土壌で活動し全員ができるようになる。達成感を共有でき、子ども達に非日常的空間を与えることができる。

公立学校の子どもは、家庭環境もばらばらなため、家庭でどこにも連れて行ってもらえない子もいる。校外学習で普段味わえない体験をさせられることは、子ども達の社会勉強にもなる。

●本日参加して、教師自身がワクワクしていた。この体験を子ども達が同じ土俵でできる機会がもてるのは、非常に有意義と思われる。海というスケールの大きなチャレンジは、壁はあるが挑戦してできた時の達成感が大きい。



9月11日で東日本大震災からちょうど半年が経過しました。津波などの災害について学校の授業で取り上げていますか？



●津波について授業で取り組んでいるところはないと思う。

●教科書以外で新聞を使った学習を実施しており、紙面から災害を感じることはしている。市では津波を想定した一次避難、二次避難を計画しているが、学習ではなく防災や減災の訓練になっている。

●3月11日は子ども達も直接揺れを感じ、ニュースで災害の現状を体験した。その体験をもとに話し合いをしている。また、それまで防災訓練を漫然としていた子ども達は、その瞬間ただびっくりするだけであったため、訓練の有り方について改めて考えさせられた。

●スマトラ沖地震から一年後にタイに観光で行ったときに聞いた話だが、現地には「津波」という言葉がなく、その存在を知らなかったと

いう。災害の種類を知っていれば、予測してそれを回避することもできる。知っていて何もしないのは良くないと子ども達に話している。

●内陸部のため、津波に対してリアリティーがない。水泳でも沿岸部では着衣泳を実施するが、それもない。遠足でも海では弁当を食べてはいけないとか、川で遊んではいけないなど、近づけることを避けている。沿岸部の学校と内陸部の学校では海に対する考え方の格差がある。

●学校の休み前の注意でも、沿岸部の学校では海に対する注意をする（海ありき）。内陸の学校では、川などの危険な箇所などは教えず、行かせないことを優先させている。危ないことは取り上げないし教えない。



ウォータースポーツ・海洋教育の導入を実現するために必要なことは何ですか？



●校長会が頻繁に開かれているので、そこでのプレゼンなどは有効であろう。

●横浜市では、教育委員会に研修研究課があり、そこでプログラミングをしているので、子ども達にこういう力が付き、こういう成果が期待できるというものを提示し、だから海で活動すると良いというような売りや安全性を示し、了解が取れば市内の学校に通知され学校の独自性を取り入れながら実施されていく可能性はある。

●新学習指導要項が小学校は2011年4月から、また中学校が2012年4月から始まる。それぞれの学校では、それに合うカリキュラム

を作成中のため、今年、来年はアプローチのチャンスではないか。カリキュラムを増やすことはできないが、例えば体育のなかで他のプログラムに代えてウォータースポーツを実施するとか、遠足で取り組む方法もあると思う。

●今の子ども達に主体性とコミュニケーション能力が欠けていることは、すべての先生が認識しており反論することはできない。そこで、それらを改善することが海洋教育では可能であることを検証できれば十分取り入れることは可能であろう。ペア・グループでの活動をとおし、その振り返りも含めてプログラミングすれば説得力が増すのではないか。



実際に体験してみているかがでしたか？



●体験してみて単純にすごく楽しかった。なかなか思うようにいかないことを含めて、実際に見たりやったりすることは、非常に大切であると感じた。保護者の中には海に来たことがない人もおり、ただ危ないと思っている。いろいろな課題はあるが、体験することで考え方も変わると思う。

●実際に体験してみて楽しかった。だが、受け持っている2年生では怖いと感じるであろう。しかし、怖いからおしまいではなく、何に気をつけるかが必要。環境がないが、それを作って取り入れてみたい。話だけではなく実際に体験することが必要だと思う。実際に体験するには、子どもの体格の差もあるが、3・4年生位からではないだろうか。

●自分が担任の5年生が海に出ることができるかは不安。ただし、横国大附属小のこども達ができているので、やれるであろう。しかし自分のクラスではウインドサーフィンは難しいかもしれない。シュノーケリングであれば事前に魚などの学習もできるし、泳げない子どもでも岸辺で観察ができると思う。

●田舎育ちで子どもの頃にカヤックやカヌーの体験をしたことがある。ウインドサーフィンは初めてであったが、とても楽しかった。危険な面もあるが、きちんと準備してやればできると思う。子どもたちにとってバランス感覚や身体を使いこなす技術を磨くのに良い機会であると思う。内陸の学校では、宿泊訓練を入れたカリキュラムによる2泊3日で実施するような一大イベントにしてもいいので

はないか。

●子どものころ学校でスケート教室があり、そこでやった経験は今でも覚えている。しかし、今の保護者や子どもたちは尻込みしてしまうのでないだろうか。水が怖い子どもには、親が子どもを守ろうとすることで、それ以上させようとはしない。また、自分からやりたいという子どもも少ない。親を安心させる方法を考えていかなければならないであろう。

●特別支援学級の子どもたちは、水に顔をつけられない子も多い。それでもはじめは水辺で遊び、次にライフジャケットを着けて水に入り恐怖心を取り除き、怖くなく楽しいものだとすることを教えていけばできるのではないだろうか。

●やってみてできないと、やはりくやしい。ウォータースポーツの場合は誰もが同じスタートでできるのは、励みになると思う。また、自然を感じ、それを感覚でわかるので気持ちが盛り上がってくる。

●疲れた、暑い、嫌だと言う子どももいると思うが、それを含めた自然体験をすればいいと思う。学校は何かあれば止めてしまう。自然と自分の繋がりを確認するツールとしてウォータースポーツは良い材料ではないだろうか。

●体験して感じたことは、子どもたちに自分の身は自分で守るということを教えるのに非常にいいということ。こういったことを学校の中だけ考えていけば良い時代では無くなったのではないだろうか。自分で自分を守る教育をするべき時期にきている。事故や災害はいつ来るかわからない。また、シニアの生涯スポーツとして、あるいは無気力だったり荒れていたたりする子どもの更生にも貢献していると聞いた。それは行政へのアピールになるのではないだろうか。

Discussion 2

体験会開催：2011年10月1日、30日

- 学校長の主導でウォータースポーツの導入を検討している公立小学校の教職員が参加。学校長も自ら体験。沿岸部の学校ということもあり積極的だが課題も多い。



ウォータースポーツ・海洋教育導入への課題は何ですか？



●公立学校は、いろいろな環境の家庭があり、保護者もいろいろである。理解を得るのは簡単ではない。

●段階を追って物事を進めて行くことが、公立学校では必要である。

●教員の理解を得るには、時間の確保が重要である。ただでさえ忙しい中、新しい事をするのは難しい。

●経費をどのように確保するのも重要な問題である。

●安全管理をクリアにしなければ、保護者や教師の理解を得ることはできない。

●保護者や教師の理解を得て、積極的に海のプログラムを取り入れていくには、校長のトップダウンが必要である。



ウォータースポーツ・海洋教育の導入を実現するために必要なことは何ですか？



●低学年については、海辺等で海に親しむことから始め、高学年になったらマリンスポーツつなげて行くのが望ましいと思う。

●総合学習で学年ごとに取組むのがいいだろう。

●その学年の担当教諭が海の活動に対して前向きな者が多ければ、活動を進めるのは早いであろう。学年ごとに裁量権はある。

●海の近くの学校であるにも関わらず、どんなことができるのかよくわかっていない。学校側が選択できる複数の提案があるとやりやすい。

●学校では、海での観察は以前から実施していたので、安全面等をクリアしていけば充分対応可能だと思う。





津波などの災害について学校の授業で取り上げていますか？



●震災以降、段階的に安全教育を実施してきている。

●津波・地震の対応は検討しているが、安全面の確保を考えなければならない。



ウォータースポーツ・海洋教育に対して期待する成果は何ですか？



●海に隣接した地域に住んでいるにもかかわらず、海での遊び方がわからない子どもが多いように感じる。それは、子どもたちを海に連れ出していないから。震災以降、特に海から遠ざけようとする風潮が強くなったが、危険だから遠ざけるのではなく、正しい知識を与え、海にふれることが、危険回避につながる。そのきっかけにしたい。

●実際に体験して純粋に楽しいと感じた。この楽しさは子ども達にも伝わるはず。



Appendix

参考資料

資料 1：「ふれあいタイム」マリンスポーツ教室で使用した教科書

資料 2：運動・スポーツ活動状況調査

資料 3：海洋教育プログラムに関する調査【オーシャン・リテラシー・サーベイ】

資料 4：過去 1 年間に 1 回以上行った運動・スポーツの実施状況

資料 5：オーシャン・リテラシー・サーベイによる海の理解度

資料 6：津波警報時のオレンジフラッグ掲揚について

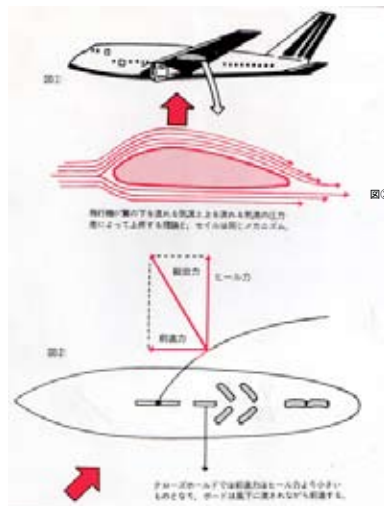
ウインドサーフィンの基本知識(きほんちしき)

道具の名前



セイル	: 風をうけ前に走り出す力を作ってくれます (車でいうエンジンの役割(やくわり)です)
ブーム	: ココをにぎってセイルをコントロールします (ハンドルの役割です)
マスト	: セイルをはるための帆柱(ほばしら) (人間に倒えると背骨のような、とても大事な物です)
ジョイント	: リグとボードをつなぎます (ヨットと決定的(けつていてき)な違い(ちがひ)がココにあります)
ボード	: この上に乗って海の上を自由に移動(いどう)しましょう
ノーズ	: 進行方向側(しんこうほうこうがわ)
テール	: 後方側(こうほうがわ)
ダガーボード	: 風をうけて走るときによこながれを防いでくれます
フィン	: ちょくしんせいを高めてくれます

ウインドサーフィンの基本原理(きほんげんり)①



図③ 上側は翼断面 下側はセイルを上から見た図

ウインドサーフィンが進(すす)む力は飛行機(ひこうき)が飛(と)ぶ力と同じ力を使っています。

左の図は飛行機の翼(つばさ)を切(き)って横(よこ)から見たところでは、この翼の前から風が流(なが)れてくると、翼の下側(した)がわ)はスムーズに風が流れ、ふくらんだ方の上側(うへ)がわ)は風が曲(ま)げられて流れます。

上を通(とお)る風も下を通る風も同時(どうじ)にスタートして同時に翼から出て行きます。上側の風が下側よりも早く動(うご)く事によって同時に出て行く事が出来ています。

上下、風の流れるスピードが違(ちが)う事によって気圧(きあつ)の変化(へんか)が起(お)こり、気圧はスピードが速(はや)い方(上側)が低(ひく)く、遅(おそ)い方(下側)が高(たか)くなります。

高いところから低いところへ川が流れるように、空気も高いところから低いところへ移動(いどう)します。

この、翼やセイルを引っ張る力を『揚力(ようりょく)』と言(い)います。

ウインドサーフィンの基本原理(きほんげんり)②



左図、てんとう虫の付いている、大きな矢印(やじるし)が風の向きです。細(ほそ)い矢印は風にたいしてウインドサーフィンが進(すす)む角度(かくど)についている名称(めいしょう)です。風にたいして45度(ど)を『クローズホールド』90度を『ウインドアビーム』135度を『クォーターリー』180度を『ランニング』と呼(よ)びます。

ウインドサーフィンは風(かぜ)の力(ちから)を利用(りよう)して走(はし)るわけですが、風にたいしてどんな方向(ほうこう)にでも走(はし)って行(い)けるわけ(わけ)ではありません。

風向(かざむ)きにたいして45度(ど)以上(いじょう)の角度(かくど)では走(はし)りつづけることはできません。

左図(さず)、クローズホールドの矢印(やじるし)にはさまれているばしょが『デットゾーン』と呼ば(よ)ばれ進(すす)めなくな(な)ってしま(しま)うばしょです。

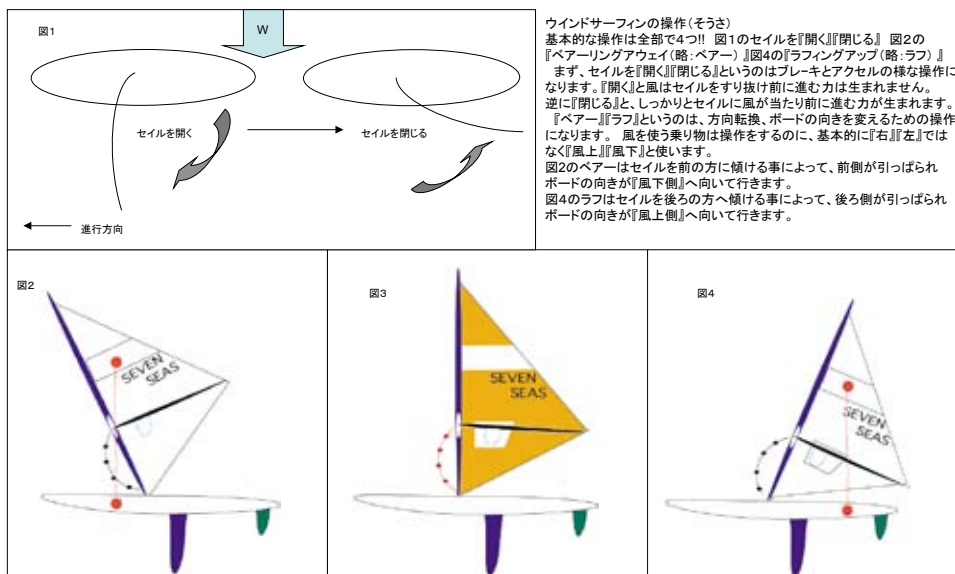
どんなに頑張(がんば)っても絶対(ぜったい)に止(と)まってしま(しま)います。(逆(さか)りに)デットゾーン以外(いがい)はどんな角度(かくど)でも進(すす)めます。

仮(かり)に、細(ほそ)い矢印(やじるし)の中心(ちゆうしん)からてんとう虫(ちゅうちゅう)まで行(い)きたいときは、クローズホールドを使(つか)い、方向転換(ほうこうてんかん)をしなが(し)らジグザグ(じぐざぐ)に進(すす)むこと(こと)によ(よ)ってたどりつ(と)くことが出来(でき)ます。

ちなみに、自分(じぶん)を中心(ちゆうしん)に風(かぜ)が吹(ふ)いて来(き)ている方(かた)を『風上(かざかみ)』風(かぜ)が吹(ふ)いて行(い)く方(かた)を『風下(かざしも)』と言(い)います。

左図(さず)、ウインドアビームよりクローズホールドは風上(かざかみ)側(がわ)、クォーターリー・ランニングは風下(かざしも)側(がわ)となりま(な)す。

ウインドサーフィンの基本原理(きほんげんり)③

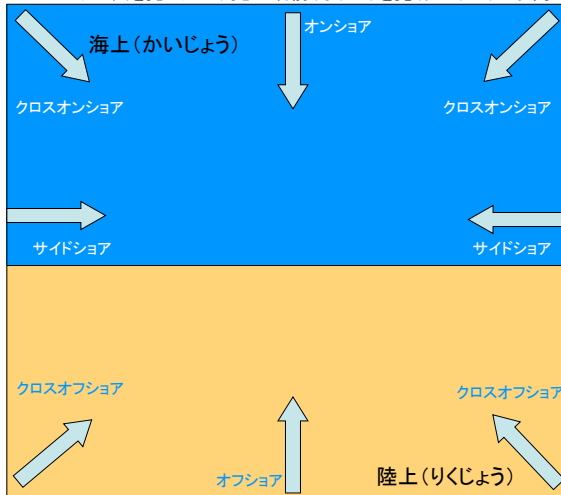


風のきそちしき①

風の向きを知りましょう

海などに遊(あそ)びに出かけたら必(かなら)ず風を確認(かくにん)しましょう。

下の図を見て風の向き(なまえ)を覚(おぼ)えましょう。



左図、矢印(やじるし)は風の向きです。

海から陸(りく)に吹いて来る風はオンショア。

陸(ビーチ)から海に向かって吹く風はオフショア。

ビーチに平行して横から吹く風をサイドショア。オンショアとサイドショアの中間(ちゆうかん)をクロスオンショアと言います。

オフショアとサイドショアの中間をクロスオフショアと言います。

オフショアのときはビーチボールや浮き輪などが風に流され沖(おき)に出て行ってしまいます。オンショアのときは、風が強くなってくると波が大きくなってきます。

風のきそちしき③

なぜ風が吹くの？

空気があためられたり、ひやされたりすると、空気がいどうできるようになります。

空気がいどうできるようになると、地上近く(ちじょうちかく)に空気がいっぱいあつまる所と、すくなくるところがでできます。

すくなくなったところへ空気がながれこんで行くことによって風がうまれます。※陸風・海風・サーマルなどと呼ばれます

そらをとんでいた空気が、つめたくなると、みんなちじょうにおりていきます。

ちじょうにおりるときに風となり、この風によってつぎからつぎへとちじょうにおりていきます。

こうして空気がちじょうにあつまると、『高気圧』(こうきあつ)になります。

「高気圧」は、じめんにぶつかった空気が、そへふきだしていきます。このとき「ちきゆう」が回っているえいきようで、「高気圧」は「とけいまわり」にまわりながらふきだします。

ちじょうにいる空気たちがあたたかくなると、上へ上へ、とんでいってしまいます。

こうして上へとんでいくときに風となり、この風によってつぎからつぎへと、上にとんでいく空気たちがあつまり

ちじょうに空気がすくなくなっていくと、『低気圧』(ていきあつ)になります。

「低気圧」は上にとんでいく空気たちがあつまり、上にすいあげられる力が強くなっていきます。このとき、「ちきゆう」が回っているえいきようで、「低気圧」は「はんとけいまわり」にまわりながらちゆうしんにむかってふきこんでいきます。

空気は「高気圧」から「低気圧」へ、川が山の高いところから低いところへながれるように、空気も風となってながれて行きます。



図1

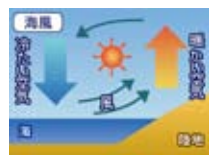


図2



図3



図4



※イラスト提供 <http://www.gakujoiken.or.jp/omoshiroK/kaze/index.html>

風のきそちしき④

天気図を見て風の吹きかたを見てみましょう



青い丸は高気圧
赤い丸は低気圧
黄色い丸は台風です。

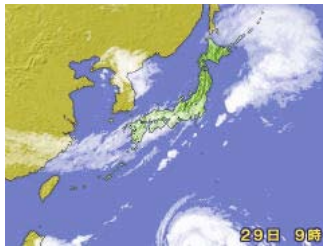
湾曲した白い線は「等圧線」と言い、気圧の高さを表します。
線の数が多い程、高低差が大きく風も強く吹きます。
(地図などに出てくる「等高線」とおなじようなものです)
風は等圧線に対して15〜20度ぐらいの角度で吹いています。

天気図中の日本列島の右側

赤い線は「温暖前線」
青い線は「寒冷前線」
ピンク色は「停滞前線」

風は温暖前線・寒冷前線それぞれ後ろ側に向かって吹いていきます。
この図をもとに、前線付近の風向きを調べてみましょう。
風向きは等圧線に対して15〜20度なので、温暖前線に向かって吹いている風は南〜南西の風になり、寒冷前線に向かって吹いている風は北〜北西の風となります。

自分達の住んでいる所は何風が吹いているでしょう？

※イラスト提供 (株)ウエザーマップ <http://www.weathermap.co.jp/kishojin/>風のきそちしき⑤
季節で吹く風

『春一番』 図1 2月〜3月

だいたい立春から春分までの間に、日本海を進む低気圧に向かって、南側の高気圧から風速8メートル以上の風が吹き込み、前日に比べて気温が上昇することを春一番と呼んでいます。

『移動性高気圧・前線通過』 図1 3月〜5月・9月〜11月

春や秋に多くみられます。高気圧の後ろを低気圧が付いて来ているので、2〜4日で天気が変わります。

高気圧の通過後、低気圧が日本海を進むことで南風が強くなり気温が上昇します。また、低気圧が太平洋側へ移動し、前線通過に伴い気温が低下し、南風から北風へ急激に変わり、雷雨をもたらすこともあります。(海や山で遊ぶ時は注意がとって必要なお天気です)

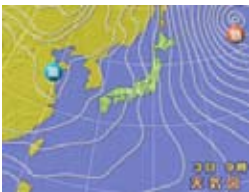


『サーマル(海風・陸風)』 図2 5月〜8月頃(主に夏に吹きます)

日中、お日様に陸地が暖められ上昇気流が発生し、海上では空気が冷やされ下へおいていきます。すると、海の空気が陸地の上昇気流に引っぱられ、サーマル(海風)が吹きます。日が沈み、海からの冷たい風により陸地の温度が下がると共に風も止みます。また、陸地の暖かい空気は海水温を上昇させ、今度は海上で上昇気流が発生し、陸地から海への陸風が吹きます。(この現象は夜と日中の気温差が大きく影響しています)

『黒南風(くろはえ)・白南風(しろはえ)』 6月の初旬〜7月終わり頃

黒南風は梅雨入りの頃、黒い雨雲と一緒にやってくる南の風
白南風は梅雨明けの頃に吹く南の風のこと。
梅雨入りしてしまうと風は全くと言っていい程に吹きませんが、梅雨入りまじかと梅雨明けは南風がだいたい吹きます。



『台風』 7月〜10月頃

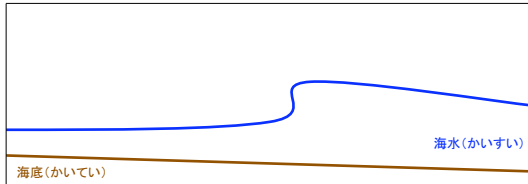
遠く南の海で出来た低気圧が発達して出来たもの。
半時計回りに回りながら進むので、台風の右側は巻き込む力、プラス前に進む力が加わり被害が拡大します。

『西高東低』 図3 12〜2月

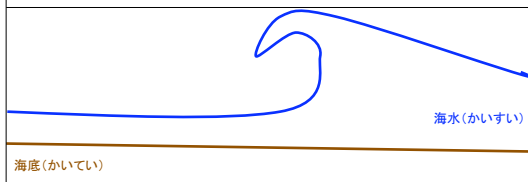
冬の天気図と言えばこれ。等圧線の間隔が狭ければ狭い程、北西〜西の風がかなり強く吹き、日本海側では大雪になります。
鎌倉では伊豆半島と富士山の影響で北風が吹くか、全く風が無いかのどちらかが多いですが、西風が強い時は伊豆半島を超えて吹いて来ます。これを「大西」と呼びます。

※イラスト提供 (株)ウエザーマップ <http://www.weathermap.co.jp/kishojin/>

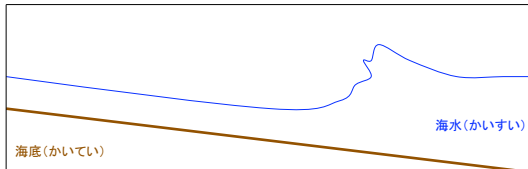
波の種類(しゅるい) 波には大きくわけてつぎの3種類があります。
良く観察(かんさつ)して、安全な波であそびましょう。



【くずれ波】
この波は、波の頂上(ちようじよう)が波の表面(ひようめん)に転がり落ちるようにしてくずれます。サーフィンやボディサーフなどの波を楽しむ人にとって良い波といえるでしょう。

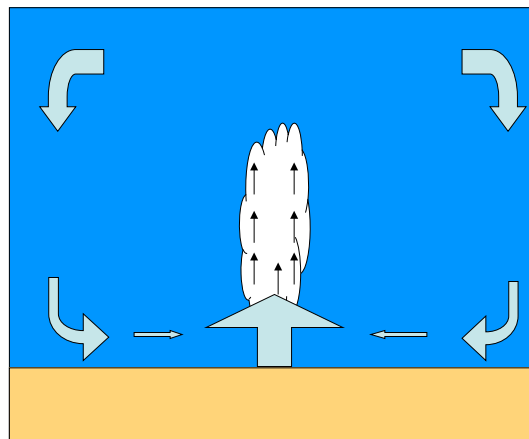


【まき波】
この波は、うねりがきゆうな斜面(しゃめん)の海底(かいてい)にぶつかり、いきにくずれる波でダンパーともよばれます。すさまじい力でくずれ、泳いでいる人がこの波に巻かれると簡単に海底(かいてい)にたたきつけられて、ケガをすることがあるので注意(ちゆうい)しましょう。



【くだけ寄せ波】
この波は、岸に近づいて来てくずれません。岩場(いわば)などでは、波の力で足を引きこまれることもあるので注意(ちゆうい)しましょう。

リガンリュウって知ってる！？



【ビーチから沖へ向かう流れのこと】
ウキワにつかまりブカブカしているとリガンリュウにつかまり、沖に流されてしまうことが良くあります。流れにつかまってしまった場合、流れにさからって泳ぐことは、大人であってもまず不可能です。流されてしまった場合は、パニックにならないこと。

(溺れる原因のほとんどはパニックによるものです)

まず、ビーチがどこにあるのか確認しましょう。

リガンリュウはあるていど沖まで流れたら弱まっていきます。

そうしたら、ビーチを見てヨコに泳いでいきます。それからビーチに向かって泳ぎましょう。

リガンリュウは地形によって発生する場所が決まっています。台風の後には発生場所が変わってしまう事もありますが、だいたい同じです。知らない場所で海に入る場合は地元の人に発生場所を聞いてから入りましょう。

また、潮が引いたときに砂の形が川のように見える場所は、リガンリュウの発生場所であると言うことができます。高いところから見てみるとより分かりやすいです。

ビーチで波がなければ、基本的にリガンリュウは発生しません。ビーチで人が溺れる原因のほとんどは波がビーチに来ることで発生したリガンリュウで、ほぼ潮の流れではありません。

【海で安全に楽しく遊べるために】

海で遊ぶ前に「たすけてサイン」をおぼえよう！！

「片手を大きくふる」これが「助けてサイン」

自分がおぼれたり、流されたり、おぼれている人を見つけたときは、「助けてサイン」をだしましょう

① 天気を調べよう

晴・雨・雷 風の強さ・向き 波の高さ
天気は変わって行くものです。
午前と午後の違いも調べておきましょう。

② 遊ぶばしょを調べよう

遠浅・ドン深・岩場の存在・ライフガードは居るか？

③ 潮の満ち引きを調べよう

大潮・中潮・小潮・長潮・若潮
潮の高さ、満ち始めの時間、引き始めの時間
潮が満ち始めるとあつという間に、水が増えてきます。

④ 海であそぶ時は大人といっしょに！！

大人の人の注意を良く聞いて、人のすくないところへは行かない。

⑤ じゅんび体操をしよう

急に水の中に入ると足がつったり、溺れることがあります。

⑥ 海に走ってったり、とびこんだりしない

水の透明度が悪い時など下に何があるか分かりません。
岩があったり、急に深く穴がぼれていたりするとケガや溺れの原因

⑦ 休けいを必ずとろう

食事の後や寝不足のときは無理をせず必ず休憩をしましょう。
そして、水分をいっぱい取りましょう。

A ライフジャケットを着よう

着る事によってほとんど溺れる事がなくなります。

B ウエットスーツを着よう

体温の低下をおさえ、溺れる原因を減らします。

C マリンブーツを履こう

海中には何が落ちているか分かりません。
出来るかぎりはきましょう。

D ラッシュガードを着よう

ウエットスーツでは暑すぎる場合、これを着る事により、日焼けやクラゲに刺されるなどを軽減してくれます。

E 帽子をかぶろう

熱中症の予防や、流されたときに(目立つ色の場合は)発見されやすくなります。(赤・黄・オレンジ・蛍光色がおススメです)

F 日焼け止めクリームをぬろう

日焼けによる火傷を防いでくれます。

G クラゲ除けクリームをぬろう

自然の中で遊ぶのでクラゲに刺される事は当たり前です。
しかし、中には刺されるとひどい症状があらわれることがあります
コレをぬっておけば、ほとんど刺される事はありません。

平成23年9月実施

運動・スポーツ活動状況調査

運動・スポーツは、人生をより豊かにし、からだところの欲求にこたえる世界共通のものです。オリンピックやワールドカップ、プロスポーツの試合などが毎日のニュースで取り上げられ、それを話題にする場面が増えています。

続けて運動している人も多くなり、今や運動・スポーツは、大きな広がりを見せて私たちの生活に欠かせないものとなっています。

この調査は、みなさんが今後、身近なところで楽しみながら運動・スポーツができるように、今の運動・スポーツをしている状況や意見を聞くことを目的に行います。みなさんの率直な意見を聞かせてください。ご協力をよろしくお願いします。

〈調査協力・問い合わせ〉

NPO チャレンジスポーツクラブ
〒248-0013 鎌倉市材木座 6-16-35
Tel 0467-24-6828 (代表 新嶋 光晴)
横浜国立大学教育人間科学部スポーツ社会学研究室
〒240-8501 横浜保土ヶ谷区常盤台 79-2
Tel 045-339-3272 (教授 海老原 修)

ご記入にあたって

1. 答えは、あてはまる番号に○印をつけるが、[]内に数字やスポーツ名などを書いてください。
2. 記入は、質問の番号や矢印(→)にそってお願いします。
3. 記入は、エンピツまたは、黒か青のボールペンでお願いします。

【記入例 1】 1) 年齢 [11] 歳

【記入例 2】

1 1年間に	1回あたり
2 1か月に [3] 回	およそ [30] 分
③ 1週間に	

【全員におたずねします。】

問1 あなたはおいくつですか。[]の中に、数字でお書きください。
また、性別については、あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つだけ)

1) 年齢	[] 歳
2) 性別	1 男 2 女

問2 あなたは、運動・スポーツをすることが好きですか。(○は1つだけ)

1 好き	2 どちらかというとき好き	3 どちらかというとき嫌い	4 嫌い
------	---------------	---------------	------

問3 あなたは、自分で普段運動不足だと感じていますか。(○は1つだけ)

1 非常に運動不足だと思う	3 あまり運動不足ではない
2 運動不足なほうだと思う	4 運動不足ではない

問4 あなたは、自分の体力についてのどのよう感じていますか。(○は1つだけ)

1 体力には自信がある	2 体力は普通である	3 体力には自信がない
-------------	------------	-------------

問5 あなたは、この1年間に運動・スポーツをしましたが(学校の部活動や休み時間の活動を含めるが、学校の授業や学校行事のキャンペーンなどは含めない)。あてはまる運動・スポーツすべてに○をつけてください。
一度もしなかった人は「99 この1年間、運動・スポーツはしなかった」に○をつけてください。

<球技やチームスポーツなど>	
1 サッカー	39 空手
2 フットサル	40 弓道
3 キックベースボール	41 剣道
4 野球	42 柔道
5 ソフトボール	43 相撲
6 キャッチボール	<海・マリンスポーツ>
7 バスケケットボール	44 海水浴
8 3on3(スリー・オン・スリー・バスケットボール)	45 カヌー
9 バレーボール	46 サーフイング
10 ソフトバレーボール	47 スケートボード
11 ハンドボール	48 ボート
12 バドミントン	49 ボートセーリング(ウインドサーフィン)
13 ラグビー	50 ボディボード
14 タグラグビー	51 ヨット
15 ボウリング	<野外・アウトドアスポーツ>
16 卓球	52 キャンプ
17 テニス(硬式)	53 釣り
18 ソフトテニス(軟式)	54 ハイキング
19 ドッジボール	55 登山
20 フライイングディスク(frisbee)	56 ウォーターアリー
<ひとりでもできるスポーツ・ダンスなど>	
21 エアロビクスダンス	57 オリエンテーリング
22 アクアビクス	58 ハンググライダー
23 筋力トレーニング	<冬・ウィンタースポーツ>
24 水泳	59 スキー
25 ゴルフ	60 スノーボード
26 体操(軽い体操・ラジオ体操など)	61 スケート
27 体操競技	62 そり
28 ダブルダッチ(2本の長なわとびの一種)	<車輪のあるスポーツ>
29 つなひき	63 一輪車
30 トランポリン	64 インラインスケート
31 なわとび	65 ローラースケート
32 バレー	66 スケートボード(スケボー)
33 フォークダンス	67 キックボード
34 ジャズダンス	68 サイクリング
<走る・歩く>	
35 ウォーキング	69 バイシクルモトクロス(BMX)
36 ジョギング・ランニング	<その他>
37 陸上競技	70 (具体的に:)
38 カヌー	71 (具体的に:)
	72 (具体的に:)
99 この1年間、運動・スポーツはしなかった	
6ページの問8へ進んでください	

【問5で運動・スポーツをしていた人におたずねします。】
 問6 あなたが、この1年間によくやった運動・スポーツはなんですか(学校の部活動や休みの時間の活動は含めるが、学校の授業や学校行事のキャンプなどは含めない)。
 回数が多いものから順に3つ選んで、それぞれ「イ」～「へ」に答えてください。

イ. その回数はどれくらいですか。 (年、月、週のどれかの番号に ○をかきつけてください)	ロ. その時間は1回あたり 何分くらいですか。 (数字を書きつけてください。 1時間 30分の場合は 90 分と書いてください)	ハ. その時の「きつさ」はだいたい どれくらいでしたか。 (○は1つだけ)	ニ. その運動・スポーツをしてい る場所はどこですか。 (詳しく書いてください)	ホ. その運動・スポーツをするために、学校の運動部、民 間や地域のスポーツクラブなどに入っていますか。 (○は1つだけ)	ヘ. コーチや監督などの指導者 がいますか。 (○は1つだけ)
記入例: [サッカー] → 1 1年間に [3]回 ③ 1週間に	記入例: 1回あたり おおよそ [90]分	記入例: 1 かなり楽である 2 楽である ④ ややきつい 4 きつい 5 かなりきつい	記入例: [第一小学校]	記入例: 1 学校の運動部やサークル 2 民間のスポーツクラブ(スイミングクラブ、体操クラブなど) ③ 地域のスポーツクラブ(スポーツ少年団、教室など) 4 どこにも入っていない 5 その他()	記入例: ① いる 2 いない
1 番目によくやった運動・スポーツ名 [] → 1 1年間に []回 2 1か月に []回 3 1週間に []回	1回あたり おおよそ []分	1 かなり楽である 2 楽である 3 ややきつい 4 きつい 5 かなりきつい	[]	1 学校の運動部やサークル 2 民間のスポーツクラブ(スイミングクラブ、体操クラブなど) 3 地域のスポーツクラブ(スポーツ少年団、教室など) 4 どこにも入っていない 5 その他()	1 いる 2 いない
2 番目によくやった運動・スポーツ名 [] → 1 1年間に []回 2 1か月に []回 3 1週間に []回	1回あたり おおよそ []分	1 かなり楽である 2 楽である 3 ややきつい 4 きつい 5 かなりきつい	[]	1 学校の運動部やサークル 2 民間のスポーツクラブ(スイミングクラブ、体操クラブなど) 3 地域のスポーツクラブ(スポーツ少年団、教室など) 4 どこにも入っていない 5 その他()	1 いる 2 いない
3 番目によくやった運動・スポーツ名 [] → 1 1年間に []回 2 1か月に []回 3 1週間に []回	1回あたり おおよそ []分	1 かなり楽である 2 楽である 3 ややきつい 4 きつい 5 かなりきつい	[]	1 学校の運動部やサークル 2 民間のスポーツクラブ(スイミングクラブ、体操クラブなど) 3 地域のスポーツクラブ(スポーツ少年団、教室など) 4 どこにも入っていない 5 その他()	1 いる 2 いない

【この1年間に運動・スポーツをしていない人におたずねします。】

問7 あなたが、この1年間に運動・スポーツをした理由は何ですか(学校の授業はのぞく)。(〇はいくつでも)

- 1 楽しいから
- 2 好きだから
- 3 うまくやりたいから
- 4 練習をしたいから
- 5 勝ちたいから
- 6 からだを動かしたいから
- 7 みんなで集まりたいから
- 8 新しい友達を知りたいから
- 9 自分の得意なことをやりたいから
- 10 ストレス解消(気分直し、リフレッシュ)をしたいから
- 11 やせたいから
- 12 自分を認めてもらいたいから
- 13 進学・就職にいかせようだから
- 14 他にすることがないから(ひまだから)
- 15 友達にさせられたから
- 16 親にすすめられたから
- 17 兄弟姉妹がやっているから
- 18 先生にすすめられたから
- 19 その他(具体的に:)

【今、運動・スポーツをしていない人におたずねします。】

問8 あなたが、運動・スポーツをしない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 下手だから
- 2 きらいだから
- 3 つまらないから
- 4 疲れるから
- 5 面倒だから
- 6 するところがないから
- 7 運動・スポーツより他にしたいことがあるから
- 8 仲間がないから
- 9 お金がかかるから
- 10 勉強や習いごとで忙しいから
- 11 からの調子が悪くてスポーツができないから
- 12 自分のやりたいと思う運動・スポーツがないから
- 13 その他(具体的に:)

【全員におたずねします。】

問9 あなたは、してみたいと思う運動・スポーツはありますか。今している運動・スポーツも含めてではまる運動・スポーツすべてに〇をつけてください。

してみたい運動・スポーツがない人は、「99」してみたい運動・スポーツはないに〇をつけてください。

- | | |
|---|---|
| <p><球技やチームスポーツなど></p> <ul style="list-style-type: none"> 1 サッカー 2 フットサル 3 キックベースボール 4 野球 5 ソフトボール 6 キャッチボール 7 バスケケットボール 8 3on3(3リー・オン・スリー・バスケケットボール) 9 バレーボール 10 ソフトバレーボール 11 ハンドボール 12 バドミントン 13 ラグビー 14 タグラグビー 15 ボウリング 16 卓球 17 テニス(硬式) 18 ソフトテニス(軟式) 19 ドッジボール 20 フライングディスク(フリスビー) <p><ひとりでもできるスポーツ・ダンスなど></p> <ul style="list-style-type: none"> 21 エアロビクスダンス 22 アクアビクス 23 筋力トレーニング 24 水泳 25 ゴルフ 26 体操(軽い体操・ラジオ体操など) 27 体操競技 28 ダブルダッチ(2本の長さなどびの一種) 29 つなひき 30 トランポリン 31 なわとび 32 バレー 33 フォークダンス 34 ジャズダンス <p><走る・歩く></p> <ul style="list-style-type: none"> 35 ウォーキング 36 ジョギング・ランニング 37 陸上競技 38 かけっこ | <p><武道></p> <ul style="list-style-type: none"> 39 空手 40 弓道 41 剣道 42 柔道 43 相撲 <p><海・マリンスポーツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 44 海水浴 45 カヌー 46 サーフイン 47 スキューバダイビング 48 ボート 49 ボードセーリング(ウインドサーフィン) 50 ボディボード 51 ヨット <p><野合・アウトドアスポーツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 52 キャンプ 53 釣り 54 ハイキング 55 登山 56 ウォークラリー 57 オリエンテーリング 58 ハンググライダー <p><冬・ウィンタースポーツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 59 スキー 60 スノーボード 61 スケート 62 そり <p><車輪のあるスポーツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 63 一輪車 64 インラインスケート 65 ローラースケート 66 スケートボード(スケボー) 67 キックボード 68 サイクリング 69 バイク(モトクロス(BMX)) <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 70 (具体的に:) 71 (具体的に:) 72 (具体的に:) 99 してみたい運動・スポーツはない |
|---|---|

【してみたい運動、スポーツがある人におたずねします。】
 問10 問9で答えた運動・スポーツのうち、今している運動・スポーツも含めて、あなたが一番してみたい運動・スポーツは何ですか。
 その運動・スポーツを1つだけ書いてください。

【海についての調査(オーシャン・リテラシー・サーベイ)】
 問11 次の文章を読んで自分のことについて回答してください。「まったくあてはまらない」ときは1に、「あまりあてはまらない」ときは2に、「ややあてはまらない」ときは3に、「ややあてはまる」ときは4に、「あてはまる」ときは5に、「とてもよくあてはまる」ときは6に○をつけてください。これは、テストではありませんので、正しい答えはありません。知らないもの、わからないもの、わかっても、ありのままに思った通りに記入してください。

質問	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
(例) 海が好きである	1	2	3	4	5
1. 海で泳いだり、海で遊びたい。 離れたい。 離れたい。 離れたい。	1	2	3	4	5
2. 海で遊ぶときは、空気が海の清さに注意を払っている	1	2	3	4	5
3. 海のことを知らないと思う	1	2	3	4	5
4. 海はわたしを何かかたした気がさせてくれる	1	2	3	4	5
5. 海において、空気が空の清けさや海の清けさを気にしている	1	2	3	4	5
6. ボートや船を操縦したことがある	1	2	3	4	5
7. 海の深さがや深いの海に引かれている	1	2	3	4	5
8. 海の歴史を知っている	1	2	3	4	5
9. 海が人に与える影響について知っている	1	2	3	4	5
10. 自然にできた海岸の大切さを知っている	1	2	3	4	5
11. 海での活動に合った服装を身につけている	1	2	3	4	5
12. 海は人間が生まれてからずっと存在している	1	2	3	4	5
13. 海での事故や怪死の原因がわかっている	1	2	3	4	5
14. ロープや紐を使って、2つ以上の結び方ができる	1	2	3	4	5
15. 海に魚の卵を産ませるの仕組みがわかる	1	2	3	4	5
16. 海の生物がプランクトンなどによってできている	1	2	3	4	5
17. 人々の暮らしが海に与える影響について知っている	1	2	3	4	5
18. 海の歴史や文化について知っている	1	2	3	4	5
19. 海で安全に活動する必要がある	1	2	3	4	5
20. 海を泳ぐこと「海を守る」のバランスをとる必要がある	1	2	3	4	5
21. 海を大切に思う、思いやりが必要である	1	2	3	4	5
22. 海でなくとも、海での経験がある	1	2	3	4	5
23. 海の歴史や文化について知っている	1	2	3	4	5
24. 海の清けさや海の歴史について知っている	1	2	3	4	5
25. 船舶やエレクトロニクス関連の知識がある	1	2	3	4	5
26. 海では何かしなければならぬことがあることを知っている	1	2	3	4	5
27. 深い海が重要であることを知っている	1	2	3	4	5

問12 平成21年度、22年度、23年度の「ふれあいタイム」を一覧しました。
 【ふれあいタイム】に関して、次の問いにお答えください。

sq1 これまでと現在受けている講座の番号をお知らせください。

一年生 【 現在: _____ 】

二年生 【 1年時: _____ 】 【 現在: _____ 】

三年生 【 1年時: _____ 】 【 2年時: _____ 】 【 現在: _____ 】

sq2 現在受けている講座も含めて、受けてみたい授業番号に○をつけてください。(いくつでも)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
1	フラワーデザイン	18 フラワーデザイン	38 フラワーデザイン
2	染色	19 染色	39 染色
3	スライスとふれあおう	20 スライスとふれあおう	40 スライスとふれあおう
4	英語でエエコー	21 英語でエエコー	41 英語でエエコー
5	水彩塗り絵と楽しい工作	22 美術0年	42 トリックアート
6	ストリートダンス	23 ストリートダンス	43 ストリートダンス
7	なぎなた	24 なぎなた	44 なぎなた
8	合気道	25 合気道	45 合気道
9	インディアカ	26 インディアカ	46 インディアカ
10	ヨーガ	27 ヨーガ	47 ヨーガ
11	磯の小物釣り	28 磯の小物釣り	48 磯の小物釣り
12	フットサルクリニック	29 フットサルクリニック	49 フットサルクリニック
13	華道	30 華道	50 エコで遊ぼう
14	トンチタイム	31 トンチタイム	51 テコンドー
15	ウインドサーフィン	32 ライフセービング	52 ライフセービング
16	楽しい新聞作り	33 ムージアム・トリップ	53 ムージアム・トリップ
17	浴衣・着付け	34 浴衣・着付け	54 書道で青春！とめ・はね
		35 エコで遊ぼう	55 マリンスポーツ教室
		36 ガラスをとかそう	
		37 ソフトボール	

【全員におたずねします。】
最後に「あなたのスポーツに対する思いや考え」を自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。

海洋教育プログラムに関する調査
【オーシャン・リテラシーサーベイ】 -1-

A【自分を自分で知る調査】(Self-Knowledge Post-Test)

次の文章を読み、あなのことについて書かなくてはいけません。おぼわぬときは2に、「絶対に正しい」と思ったり、「絶対に間違い」と思ったりして、1から5まで記入してください。1から5まで記入し、自分の思ったとおりに書いてください。
これは、テストではありませんので、正しい答えや間違えた答えはありません。自分の思ったとおりに書いてください。

質問	絶対に正しい	間違い、絶対に	間違い	間違い	絶対に正しい
1) 何かをするときは自信を持ってください。	1	2	3	4	4
2) 前の失敗やいやなことを思い出して悪い気持ちになる。	1	2	3	4	4
3) 友だちよりもすぐれた能力がいくつかある。	1	2	3	4	4
4) ものごとをおこなったあと、うまいくいれたと思うことが多い。	1	2	3	4	4
5) 友だちよりも持っている能力があるが、すぐれている能力もある。	1	2	3	4	4
6) ものごとをおこなったあと、失敗したと思うことが多い。	1	2	3	4	4
7) みんなの前で、言いたいことを言うことがうまい。	1	2	3	4	4
8) なにかをするとき、なんともなく、うまいくいよめる感じがする。	1	2	3	4	4
9) 入浴時、ものを覚えることが不慣習である。	1	2	3	4	4
10) なにかをするとき、うまいくいよめるのではないかと心配になる。	1	2	3	4	4
11) みんなの前で、言いたいことは言わないほうだ。	1	2	3	4	4
12) 入浴時、ものを覚えることが得意である。	1	2	3	4	4
13) 簡単なことであるからかたがたくても、自分からすすんで取り組んでいくことがうまい。	1	2	3	4	4
14) どうしたらいいかわかずに、ものごとに取り組めないうことがうまい。	1	2	3	4	4
15) 友だちよりも、ものしりである。	1	2	3	4	4
16) どんなことでも、自分からすすんでこなすことができよう。	1	2	3	4	4
17) 小さな失敗でも、入浴時と同じようにするほどだ。	1	2	3	4	4
18) 自分からすすんで活動するのには、比較的である。	1	2	3	4	4
19) 自分の中で強に立てる人間だと思う。	1	2	3	4	4
20) 小さな失敗は気にならない。	1	2	3	4	4
21) 周りの人がおこなったのをみてから自分のおこなうことがうまい。	1	2	3	4	4

ご協力ありがとうございました

B【自分を自分で知る調査】(Self-Knowledge Post-Test)

次の文章を読み、あなのことについて書かなくてはいけません。おぼわぬときは2に、「絶対に正しい」と思ったり、「絶対に間違い」と思ったりして、1から5まで記入してください。1から5まで記入し、自分の思ったとおりに書いてください。
これは、テストではありませんので、正しい答えや間違えた答えはありません。自分の思ったとおりに書いてください。

質問	絶対に正しい	間違い、絶対に	間違い	間違い	絶対に正しい
1) 何かをするときは自信を持ってください。	1	2	3	4	4
2) 前の失敗やいやなことを思い出して悪い気持ちになる。	1	2	3	4	4
3) 友だちよりもすぐれた能力がいくつかある。	1	2	3	4	4
4) ものごとをおこなったあと、うまいくいれたと思うことが多い。	1	2	3	4	4
5) 友だちよりも持っている能力があるが、すぐれている能力もある。	1	2	3	4	4
6) ものごとをおこなったあと、失敗したと思うことが多い。	1	2	3	4	4
7) みんなの前で、言いたいことを言うことがうまい。	1	2	3	4	4
8) なにかをするとき、なんともなく、うまいくいよめる感じがする。	1	2	3	4	4
9) 入浴時、ものを覚えることが不慣習である。	1	2	3	4	4
10) なにかをするとき、うまいくいよめるのではないかと心配になる。	1	2	3	4	4
11) みんなの前で、言いたいことは言わないほうだ。	1	2	3	4	4
12) 入浴時、ものを覚えることが得意である。	1	2	3	4	4
13) 簡単なことであるからかたがたくても、自分からすすんで取り組んでいくことがうまい。	1	2	3	4	4
14) どうしたらいいかわかずに、ものごとに取り組めないうことがうまい。	1	2	3	4	4
15) 友だちよりも、ものしりである。	1	2	3	4	4
16) どんなことでも、自分からすすんでこなすことができよう。	1	2	3	4	4
17) 小さな失敗でも、入浴時と同じようにするほどだ。	1	2	3	4	4
18) 自分からすすんで活動するのには、比較的である。	1	2	3	4	4
19) 自分の中で強に立てる人間だと思う。	1	2	3	4	4
20) 小さな失敗は気にならない。	1	2	3	4	4
21) 周りの人がおこなったのをみてから自分のおこなうことがうまい。	1	2	3	4	4

ご協力ありがとうございました

海洋教育プログラムに関する調査 【オーシャン・リテラシーサーベイ】 -2-

0. 海についての調査(オーシャン・リテラシーサーベイ)

次の文章を読んで、自分のことについて回答してください。「思った外では知らない」と思われる場合は、「知らない」と回答してください。「知っている」と思われる場合は、「知っている」と回答してください。ただし、「とてもよく知っている」と思われる場合は6に○をつけてください。

質問	まったく知らない	あまり知らない	やや知らない	やや知っている	よく知っている	とてもよく知っている
01. 海が何である。	1	2	3	4	5	6
02. 海で泳いだり、海軍で走ったりしたり、船場で遊んだりといった活動がよくする。	1	2	3	4	5	6
03. 海で活動するときに、天気や海の様子に注意を出している。	1	2	3	4	5	6
04. 海のことを知りたがりである。	1	2	3	4	5	6
05. 海はわたしをゆたりゆたりとした気分させてくれる。	1	2	3	4	5	6
06. 海において、自分がよく知っている活動や遊びの場所を挙げてみる。	1	2	3	4	5	6
07. ボートや船を運転したことがある。	1	2	3	4	5	6
08. 海の動物や海の生き物の名前を知っている。	1	2	3	4	5	6
09. 海が人に与える影響を知っている。	1	2	3	4	5	6
10. 自然の中で見た海の生物の名前を知っている。	1	2	3	4	5	6
11. 海での活動に合った服装を選ぶことができる。	1	2	3	4	5	6
12. 海は人が生きていく上で、大切なものであると思う。	1	2	3	4	5	6
13. 海での事故や怪状の例を知ることができる。	1	2	3	4	5	6
14. ロープや紐を使って、2つ以上の結び方ができる。	1	2	3	4	5	6
15. 海と気候の関係をよく知っている。	1	2	3	4	5	6
16. 海の生き物(プランクトンなど)をよく知っている。	1	2	3	4	5	6
17. 人が海がもたらす影響について知っている。	1	2	3	4	5	6
18. 海の環境問題について関心がある。	1	2	3	4	5	6
19. 海で安全に活動する自信がある。	1	2	3	4	5	6
20. 「海を泳ぐこと」が「海を守ること」のチャンスとなる機会がある。	1	2	3	4	5	6
21. 海を大切に扱う必要はない、やむを得ない。	1	2	3	4	5	6
22. 海でたくさんの魚が釣れる。	1	2	3	4	5	6
23. 船の乗組員や名前についてよく知っている。	1	2	3	4	5	6
24. 海の魚や生き物についてよく知っている。	1	2	3	4	5	6
25. 動物やエネルギー資源が海軍に多くあることを知っている。	1	2	3	4	5	6
26. 海では守らなければならない規則があることを知っている。	1	2	3	4	5	6
27. 深い海が貴重であることを知っている。	1	2	3	4	5	6

ご協力、ありがとうございます。

種目名	鎌倉市				青少年のスポーツライフデータ 2010		
	小学5年 (n=487)	中学2年 (n=247)	鎌倉一中 (n=200)	小計 (n=934)	全体 (n=1,989)	小学校期 (n=410)	中学校期 (n=625)
1 サッカー	47.4	38.1	31.5	41.5	26.4	37.8	31.0
2 フットサル	9.7	10.5	12.0	10.4	5.5	5.9	4.3
3 キックベースボール	26.1	6.1	8.5	17.0	8.0	21.7	7.8
4 野球	31.8	22.7	20.5	27.0	22.3	33.2	27.2
5 ソフトボール	8.8	5.3	14.5	9.1	9.3	12.4	9.1
6 キャッチボール	51.7	34.0	32.0	42.8	21.5	35.4	23.5
7 バスケットボール	35.3	29.6	49.5	36.8	26.3	28.8	32.2
8 3 on 3 (バスケットボール)	4.5	10.1	18.0	8.9	4.7	2.7	6.9
9 バレーボール	16.4	25.5	24.0	20.4	18.3	15.6	20.8
10 ソフトバレーボール	7.0	4.5	7.5	6.4	5.1	9.8	6.2
11 ハンドボール	7.8	2.8	4.5	5.8	2.5	2.9	4.0
12 バドミントン	40.2	22.3	27.0	32.7	22.8	31.7	22.9
13 ラグビー	2.1	1.2	5.0	2.5	1.3	1.0	1.3
14 タグラグビー	3.7	2.8	3.0	3.3	0.7	1.5	0.6
15 ボウリング	37.8	28.3	18.5	31.2	19.2	21.2	17.8
16 卓球	39.6	29.1	27.5	34.3	18.4	21.0	20.6
17 テニス(硬式)	14.2	13.8	14.0	14.0	6.9	4.4	6.1
18 ソフトテニス(軟式)	5.5	10.5	5.0	6.7	9.8	5.4	13.8
19 ドッジボール	65.5	24.7	33.5	47.9	22.3	54.9	22.6
20 フライングディスク(フリスビー)	17.5	7.7	9.5	13.2	2.9	6.8	3.0
21 エアロビックダンス	1.0	1.2	3.0	1.5	1.3	1.0	0.2
22 アクアビクス	0.8	0.8	2.5	1.2	0.1	0.0	0.0
23 筋力トレーニング	25.1	51.4	42.5	35.8	20.5	11.5	26.1
24 水泳	69.8	36.0	25.5	51.4	21.0	49.8	21.3
25 ゴルフ	11.7	5.7	7.0	9.1	2.6	3.7	3.0
26 体操(軽い体操・ラジオ体操など)	51.3	36.4	33.5	43.6	14.0	24.1	15.7
27 体操競技	9.4	3.6	5.5	7.1	1.8	3.7	2.2
28 ダブルダッチ(2本の長なわとび)	6.2	4.0	3.0	4.9	2.4	5.1	3.2
29 つなひき	11.9	4.5	9.5	9.4	4.3	9.5	5.3
30 トランポリン	18.1	4.0	7.5	12.1	1.9	4.1	1.6
31 なわとび	58.1	25.9	22.0	41.9	22.6	47.6	25.1
32 バレエ	6.2	2.8	5.5	5.1	1.0	2.2	0.6
33 フォークダンス	1.0	2.4	10.5	3.4	1.1	2.0	1.4
34 ジャズダンス	3.5	2.0	3.0	3.0	1.5	1.2	1.3
35 ウォーキング	37.0	37.7	39.5	37.7	17.9	20.5	17.3
36 ジョギング・ランニング	38.0	58.3	43.0	44.4	23.4	21.5	29.4
37 陸上競技	9.0	17.0	14.0	12.2	11.0	14.4	15.8
38 かけっこ	62.2	34.0	34.0	48.7	14.5	34.6	15.5
39 空手	7.4	2.8	6.0	5.9	2.2	4.6	2.6
40 弓道	2.7	1.6	3.5	2.6	1.2	0.5	0.2
41 剣道	3.9	6.5	5.0	4.8	3.0	3.7	3.8
42 柔道	2.5	2.0	4.0	2.7	2.8	2.2	3.7
43 相撲	4.5	2.0	3.0	3.5	1.3	2.7	1.6
44 海水浴	39.4	22.7	32.0	33.4	10.3	20.2	11.0
45 カヌー	8.8	4.9	11.5	8.4	1.1	2.0	1.0
46 サーフィン	6.8	5.7	8.5	6.9	0.3	0.0	0.6
47 スクーバダイビング	1.0	2.0	4.5	2.0	0.1	0.0	0.0
48 ボート	10.1	1.6	4.5	6.6	0.6	0.5	1.3
49 ボードセーリング(ウインドサーフィン)	2.5	0.8	7.5	3.1	0.0	0.0	0.0
50 ボディボード	13.6	8.1	18.5	13.2	0.5	0.5	0.6

種目名	鎌倉市				青少年のスポーツライフデータ 2010		
	小学 5 年 (n=487)	中学 2 年 (n=247)	鎌倉一中 (n=200)	小計 (n=934)	全体 (n=1,989)	小学校期 (n=410)	中学校期 (n=625)
51 ヨット	3.5	2.8	2.5	3.1	0.0	0.0	0.0
52 キャンプ	26.3	12.6	21.0	21.5	5.5	11.7	6.4
53 釣り	29.4	17.0	27.5	25.7	8.7	16.1	10.7
54 ハイキング	25.3	13.8	17.5	20.6	3.6	8.0	4.2
55 登山	22.8	15.0	21.5	20.4	5.1	8.8	6.1
56 ウォークラリー	8.6	4.5	7.0	7.2	2.1	5.9	2.2
57 オリエンテーリング	1.4	1.6	3.5	1.9	1.9	3.7	2.1
58 ハンググライダー	1.6	1.2	3.0	1.8	0.1	0.2	0.0
59 スキー	20.1	12.6	15.0	17.0	9.7	19.8	10.6
60 ノーボード	3.9	4.5	6.5	4.6	3.1	1.2	2.1
61 スケート	15.4	6.5	6.5	11.1	3.7	9.5	3.8
62 そり	12.7	4.5	4.0	8.7	3.0	8.5	3.2
63 一輪車	25.1	6.1	10.0	16.8	7.2	22.7	6.9
64 インラインスケート	3.9	1.2	3.5	3.1	1.5	3.4	1.6
65 ローラースケート	23.0	2.4	9.0	14.6	3.5	8.5	3.0
66 スケートボード (スケボー)	20.1	5.3	13.0	14.7	2.8	4.4	3.4
67 キックボード	31.6	6.9	16.5	21.8	4.3	12.7	4.2
68 サイクリング	45.8	23.5	26.0	35.7	11.4	22.4	10.7
69 バイシクルモトクロス (BMX)	2.1	0.8	3.5	2.0	0.2	0.2	0.3

過去1年間のウォータースポーツの経験有無	A群	B群	C群	D群	E群
	小学5年	中学1年	鎌倉一中	鎌倉市内 (小5, 中1, 一中含)	
	- (n=482)	- (n=246)	- (n=196)	なし (n=281)	あり (n=641)
1. 海で泳いだり、海岸で走ったり歩いたり、磯場で遊んだりといった活動をよくする	3.36	2.75	3.38	2.49	3.51
2. 海で活動するときに、天気や海の様子に注意を払っている	3.98	3.75	3.74	3.62	3.98
3. 海のことを知りたいと思う	3.55	3.20	3.36	3.09	3.56
4. 海はわたしをゆったりとした気分させてくれる	3.32	3.33	3.73	3.18	3.52
5. 海にいて、天気が良くなったり悪くなったりするのを予測することができる	2.04	1.93	2.42	1.80	2.22
6. ボートや船を操縦したことがある	2.05	1.74	2.11	1.65	2.13
7. 海の流れ方や潮の満ち引きを知っている	2.68	2.15	2.88	2.20	2.75
8. 海の歴史を知っている	2.10	1.84	2.34	1.86	2.18
9. 海が人に与える影響について知っている	2.78	2.91	3.46	2.71	3.07
10. 自然にできた海岸の大切さを知っている	3.34	3.02	3.78	3.02	3.49
11. 海での活動に合った服装を選ぶことができる	3.59	3.77	4.08	3.55	3.83
12. 海は人間が生きていくうえで、大切なものであると思う	4.58	4.62	4.71	4.38	4.72
13. 海での事故や怪我の時に対応ができる	2.81	2.61	3.02	2.45	2.95
14. ロープや紐を使って、2つ以上の結び方ができる	3.65	3.17	3.55	3.16	3.65
15. 海と気候の関係をよく知っている	2.53	2.29	2.76	2.28	2.61
16. 海の微生物（プランクトンなど）をよく知っている	2.92	2.29	2.59	2.30	2.85
17. 人々の暮らしが海に与える影響について知っている	3.42	3.26	3.73	3.21	3.54
18. 海の環境問題について関心がある	3.13	3.24	3.59	3.15	3.30
19. 海で安全に活動する自信がある	3.35	2.97	3.53	3.09	3.37
20. 「海を使うこと」と「海を守ること」のバランスをとる必要がある	3.92	3.78	4.01	3.82	3.94
21. 海を大切に扱う思いやりが必要である	4.29	4.20	4.30	4.15	4.32
22. 海でたくさんの経験がある	3.74	2.82	3.67	2.86	3.75
23. 船の種類や名前についてよく知っている	1.78	1.64	1.94	1.60	1.86
24. 海の潮の流れについて説明できる	1.88	1.55	2.21	1.61	1.97
25. 鉱物やエネルギー資源が海底に多くあることを知っている	2.58	2.46	3.38	2.54	2.79
26. 海では守らなければならないいきまりごとがあることを知っている	3.95	3.57	4.06	3.68	3.95
27. 浅い海が重要であることを知っている	3.23	2.59	3.13	2.71	3.18

津波警報時は、オレンジフラッグを掲揚します

鎌倉マリンスポーツ連盟では、津波警報が出た時、海上にでている人たちやビーチで遊んでいる人たちに知らせるため、オレンジフラッグをビーチ沿いのビルやビーチ近くに掲げます。下記のようなイメージです。各自で避難場所の確認を行いましょ。

3月11日も20名ぐらいの人がマリンスポーツを楽しんでいました。誰も地震に気づいた人はいませんでした。南風が吹いていれば防災無線も聞こえませんが、少しでも沖にいる場合は当然聞こえません。



坂の下海岸



由比ヶ浜



材木座海岸

鎌倉マリンスポーツ連盟

鎌倉マリンスポーツ連盟では、海に出る時に携帯電話を持つことを勧めるとともにこのオレンジフラッグの啓蒙活動を行います。

小中学校
**海洋教育プログラムの
実践&検証**

報告書

2012年3月発行

特定非営利活動法人 チャレンジスポーツクラブ

〒248-0013 神奈川県鎌倉市材木座 6-16-35

TEL：0467-24-6828 FAX：0467-24-6828

<http://www.7seas.jp/npo/>

本報告書の内容を引用された場合、その掲載部分の写しを、チャレンジスポーツクラブにご連絡ください。



この事業は、笹川スポーツ財団の助成を受けて実施したものです。

Challenge Sports Club
特定非営利活動法人チャレンジスポーツクラブ